

# 天神林Ⅱ遺跡

2016

本庄市教育委員会

# 序

本庄市は、江戸時代において、中山道本庄宿を擁し、物流の一大拠点として賑わい、以後も長く繭の集散地として、繁栄を誇って参りました。また、『群書類従』を編んだ盲目の国学者塙保己一の生誕地としても、広く知られているところです。このような豊かな歴史的、文化的風土に恵まれた本庄市には、旧石器時代から近代までの多くの埋蔵文化財も所在しています。

本書に報告する天神林Ⅱ遺跡は、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居を主体とする遺跡で、現在の日の出4丁目から本庄3丁目にかけて、本庄台地の縁に沿って連続する大きな集落遺跡群の一角を占めています。この集落遺跡群の中には、多量のガラス小玉鋳型が出土したことで注目される薬師堂東遺跡のような、特殊な手工業生産を行っていた区域も存在したことが判明しています。天神林Ⅱ遺跡の調査で発見された、三脚をもつ土師器の鉢も、通常の集落遺跡では出土することのない祭祀用の土器で、この遺跡の特異な性格を暗示しているようです。

また、魚を獲るための網に付ける土製の「おもり」が数多く出土していることも、天神林Ⅱ遺跡の特徴といえるでしょう。古代においても、本庄台地の下には豊富な湧水を集めた清流があり、そこでの漁撈が、当時の人々の重要な生業となっていたことが窺えます。

なお、今後は、本書が、学術研究の発展に寄与するとともに、郷土の歴史への関心を深めるための資料として、広くご活用いただければ幸いです。末筆ながら、本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた関係諸機関、直接作業の労にあたられた地元住民の皆様にご心からの御礼を申し上げます。

平成28年3月

本庄市教育委員会  
教育長 勝山 勉

# 例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市東台4丁目に所在する天神林Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東台市営住宅の建設工事に伴い、記録保存を目的として、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査地点ごとの調査期間、調査面積および調査担当者は以下のとおりである。

・ A地点

調査期間 自 平成5年6月7日 至 平成5年10月20日

調査面積 2,800㎡

調査担当者 増田一裕

・ B地点

調査期間 自 平成6年6月1日 至 平成6年9月30日

調査面積 297㎡

調査担当者 増田一裕

4. 整理調査期間は以下のとおりである。

自 平成27年4月1日 至 平成28年1月21日

5. 整理調査および本書の執筆・編集は本庄市教育委員会文化財保護課太田博之が担当した。
6. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関する資料は本庄市教育委員会において保管している。
7. 整理調査から報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。ご芳名を記し感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

池田匡彦 昆 彭生 坂本和俊 金子彰男 中沢良一 増田一裕 丸山 修  
丸山陽一

8. 本報告の発掘調査、整理調査および報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

・ 発掘調査（平成5・6年度）

教 育 長 塩原 暁 （平成5・6年度）

教育委員会事務局

事 務 局 長 金井善一 （平成5年度）

荒井正夫 （平成6年度）

社会教育課

課 長 坂上英夫 （平成5年度）

中島正和 （平成6年度）

課 長 補 佐 吉田敬一 （平成5・6年度）

文化財保護係

係 長 長谷川勇 （平成5・6年度）

主 任 増田一裕 （ 同 ）

主 事 太田博之 (平成5・6年度)  
主 事 佐藤好司 ( 同 )  
主 事 補 遠藤優子 ( 同 )

・整理調査および報告書編集・刊行 (平成27年度)

教 育 長 勝山 勉  
教育委員会事務局  
事 務 局 長 稲田幸也  
文化財保護課  
課 長 川上美恵  
課長補佐兼  
埋蔵文化財係長 太田博之  
主 幹 恋河内昭彦  
埋蔵文化財係  
主 査 松本 完  
主 査 徳山寿樹  
主 事 栗原秀太  
臨 時 職 員 的野善行

# 凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は、世界測地系第IX系に基づく。各遺構における方位針は、座標北を示す。
2. 本書掲載の図面のうち、遺構図の縮尺は、各図に明示している。  
遺物実測図の縮尺は、1/4を基本としている。
3. 遺物観察表に記した記号は、以下の通りである。  
A－法量（単位はcm）、B－成形、C－整形・調整、D－胎土・材質・含有物、E－色調、  
F－残存度、G－備考
4. 本書掲載の地形図は、国土地理院発行1/50,000「本庄」、遺跡の位置図は、本庄市都市計画図1/2,500に加筆して用いた。
5. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

## I 遺跡の環境

- 1 地理的環境…………… 1
- 2 歴史的環境…………… 2

## II 調査の成果

- 1 調査の概要…………… 6
- 2 住居…………… 7
- 3 土坑…………… 14
- 4 溝…………… 15
- 5 大溝…………… 20
- 6 調査区一括出土遺物…………… 22

## III 結 語…………… 27

引用・参考文献

写真

# 挿 図 目 次

図 1	埼玉県の地形	1
図 2	周辺の遺跡	3
図 3	天神林Ⅱ遺跡の位置図	4
図 4	天神林Ⅱ遺跡A地点全体図	5
図 5	天神林Ⅱ遺跡B地点全体図	6
図 6	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1出土遺物	7
図 7	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物 (1)	8
図 8	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物 (2)	10
図 9	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3出土遺物	11
図 10	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4出土遺物	11
図 11	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6出土遺物	12
図 12	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-7出土遺物	13
図 13	天神林Ⅱ遺跡A地点SI-8出土遺物	13
図 14	天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1出土遺物	14
図 15	天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物 (1)	16
図 16	天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物 (2)	17
図 17	天神林Ⅱ遺跡A地点SD-2・9出土遺物	19
図 18	天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物	21
図 19	天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物 (1)	23
図 20	天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物 (2)	24

# 写真目次

- 写真1 天神林Ⅱ遺跡A地点調査風景  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1完堀状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [東から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [東から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [北から]
- 写真2 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3完堀状況 [南西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4完堀状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-5完堀状況 [北西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6完堀状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6遺物出土状況  
[北西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6遺物出土状況  
[北西から]
- 写真3 天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1遺物出土状況 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1遺物出土状況 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-9完堀状況 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-10完堀状況 [北から]  
天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景 [東から]  
天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景 [西から]  
天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景 [南から]  
天神林Ⅱ遺跡B地点SD-1～4重複状況
- 写真4 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物(1)
- 写真5 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物(2)
- 写真6 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-7出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-8出土遺物
- 写真7 天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物(1)
- 写真8 天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物(2)  
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-2・9出土遺物  
天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物(1)
- 写真9 天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物(2)  
天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物(1)
- 写真10 天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物(2)
- 写真11 天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物(3)

# I 遺跡の環境

## 1 地理的環境

本庄市の地形は南方に連なる山地、市街地をのせる台地および利根川右岸に広がる低地に大別される。山地は、上武山地の北縁にあたる。奥秩父山地に比べて浸食が進み、谷が広く、比較的起伏の少ない地形を特徴としている。上武山地は、群馬県西南部の赤久縄山を中心とする地域と、埼玉県北西部の城峯山を主峰とする山地の総称であり、南東から北西方向へと展開している。

台地は身馴川（小山川）扇状地と神流川扇状地との複合地形からなり、本庄台地と呼称され、立川期に対応するものとされる。身馴川（小山川）扇状地は西側を第三系の残丘である生野山、大久保山といった児玉丘陵に、東側を松久丘陵、櫛引台地によって画され、その間を小山川、志戸川などの中小河川が北東方向へ流れている。河川の周辺は沖積化が顕著で、自然堤防状の微高地が発達している。一方、神流川扇状地は群馬県藤岡市浄法寺付近を扇頂部とし、扇端部は児玉郡上里町大字金久保から本庄市鶴森にかけて広がっている。扇状地を開析して流れる中小河川には女堀川、男堀川などがあり、身馴川（小山川）扇状地の場合と同様に、周囲には沖積地の形成が顕著である。なお、台地端部は、明瞭な崖線を形成している。現在、この崖線は、一部が河川の浸食を受けているが、本来は直線状を呈し、深谷断層の延長部にあると推測される。

台地北側に広がる低地は、妻沼低地の西縁をなして、氾濫による自然堤防が発達するとともに、利根川に沿って加須低地、中川低地へと連続している。

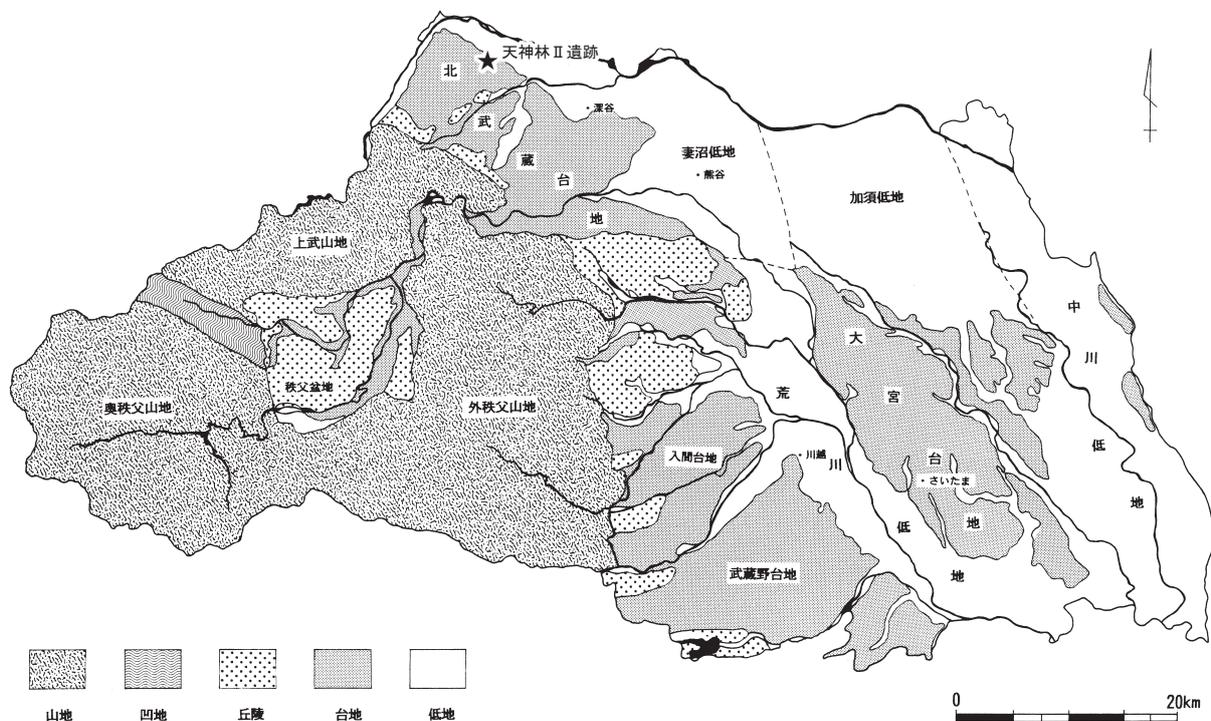


図1 埼玉県の地形

## 2 歴史的環境

本書に報告する天神林Ⅱ遺跡は、本庄台地の北縁部に立地する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡である。ここでは、天神林Ⅱ遺跡が立地する本庄台地周辺の集落遺跡の概略に触れ、同遺跡の歴史的な環境を確認しておきたい。

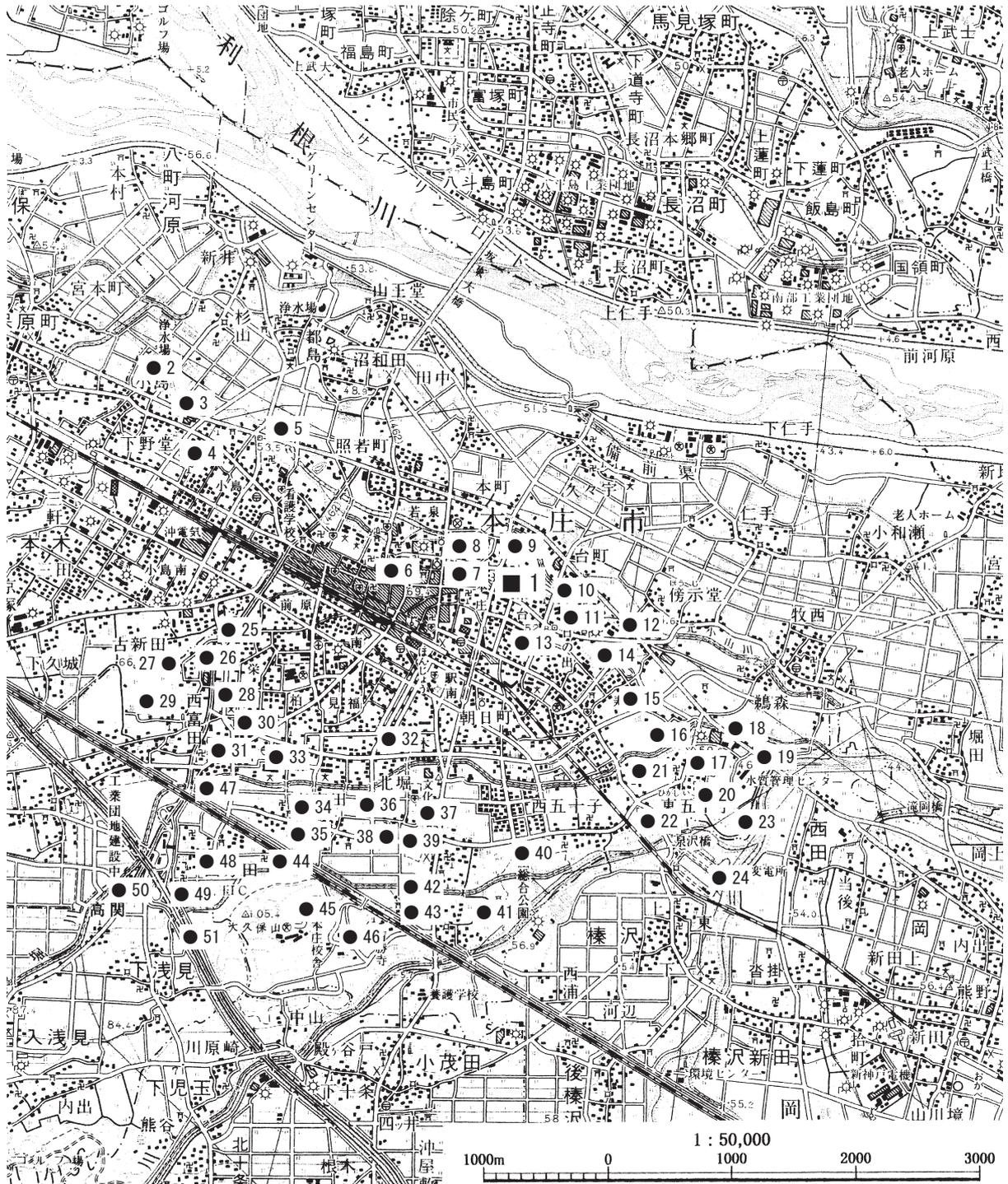
まず、古墳時代前期の集落には、七色塚遺跡（35）、久下東遺跡（36）、北堀新田遺跡（37）、久下前遺跡（38）、西五十子古墳群（40）、下田遺跡（44）、後張遺跡（49）、川越田遺跡（50）、飯玉東遺跡（51）等があげられる。このうち後張遺跡は、古墳時代前期から中期にかけての当地域における中核的集落として知られている。

古墳時代中期には、前期から継続する集落のほか、女堀川左岸の微高地および台地内奥部に、新たな集落が出現する。こうした集落としては、東五十子田端屋敷遺跡（23）、二本松遺跡（25）、夏目西遺跡（26）、弥藤次遺跡（27）、夏目遺跡（28）、笠ヶ谷戸遺跡（32）、雌濠遺跡（33）、九反田遺跡（47）、四方田遺跡（48）などが知られ、集落内における竪穴住居の軒数も一段と増加する傾向にある。また、これらのなかには、夏目遺跡のように、鍛冶関連遺物や畿内系土器・朝鮮半島系土器を模倣した地元産土師器などが検出され、人間の移住を含む西日本方面との交渉を想定しうる事例も見られる。

天神林Ⅱ遺跡が位置する本庄台地の北縁部に、多くの集落が成立するのは、この古墳時代中期以降のことである。天神林Ⅱ遺跡の西側には、天神林遺跡（9）、本庄城跡（8）、城山遺跡（7）が開析谷を隔てて連なり、東側は、薬師堂東遺跡（11）、御堂坂遺跡（13）、諏訪新田遺跡（15）が続いている。これらは、先の女堀川水系の各集落と前後する時期に成立したと考えてよく、いずれも台地端部に形成された比較的広い開析谷の内部や眼下に展開する低地帯を生産基盤として成立した集落と考えられる。

ただし、天神林Ⅱ遺跡をはじめとする台地北縁部の諸集落の多くが、古墳時代後・終末期においても存続するに対し、笠ヶ谷戸遺跡、雌濠遺跡など、女堀川水系に出現した一部の中期集落は、古墳時代後期を待たずに廃絶・移動するという点において、その後の展開をやや異にしている。なお、現在はほとんど消滅しているものの、台地北縁部には集落遺跡に連続するように北原古墳群（6）、鶴森古墳群（16）が分布し、集落に接した台地の奥部にも御堂坂古墳群（14）が存在していたことが近年の調査で明らかになっている。これらは、いずれも古墳時代中期後半以降に造営を開始する群集墳であることから、台地北縁部に展開した当該期集落内の有力者層が築造主体となったものであろう。

古墳時代終末期から奈良・平安時代にかけては、小島地区の石神境遺跡（2）、本庄2号遺跡（3）など、新たに台地下の微高地へと進出する集落が見られるようになる。また、特殊な手工業生産を行う集落が現れる。天神林Ⅱ遺跡の東に隣接する薬師堂東遺跡では、7世紀前半のガラス小玉鋳型が大量に出土するとともに、鋳銅用の土師器杯転用埴埴も検出されていることから技術集約的な生産拠点の存在が予測されている。ガラス小玉は、7世紀前半代に最も築造が盛んになる群集墳の副葬品でもあり、とくに東日本で副葬量が増加するとされるガラス小玉が域内において生産されていることは注目すべき事実である。また、石神境遺跡では、廃絶後に不良品を含む大量の土師器坏が遺棄された7世紀後半の竪穴住居が検出されており、当該時期の土師器生産集落の一つと見られている。



- 1 天神林Ⅱ遺跡 2 石神境遺跡 3 本庄2号遺跡 4 旭・小島古墳群 5 小島本伝遺跡 6 北原古墳群 7 城山遺跡 8 本庄城跡 9 天神林遺跡 10 薬師堂遺跡 11 薬師堂東遺跡 12 本庄飯玉遺跡 13 御堂坂遺跡 14 御堂坂古墳群 15 諏訪新田遺跡 16 鶴森古墳群 17 東五十子赤坂遺跡 18 東五十子城跡遺跡 19 五十子陣跡 20 東五十子古墳群 21 西五十子大塚遺跡 22 西五十子台遺跡 23 東五十子田端屋敷遺跡 24 六反田遺跡 25 二本松遺跡 26 夏目西遺跡 27 弥藤次遺跡 28 夏目遺跡 29 西富田新田遺跡 30 薬師元屋舗遺跡 31 土具路遺跡 32 笠ヶ谷戸遺跡 33 雌濠遺跡 34 東富田古墳群 35 七色塚遺跡 36 久下東遺跡 37 北堀新田遺跡 38 久下前遺跡 39 北堀新田前遺跡 40 西五十子古墳群 41 東本庄遺跡 42 有勝寺裏埴輪窯跡 43 有勝寺北裏遺跡 44 下田遺跡 45 浅見山Ⅰ遺跡 46 大久保山古墳群 47 九反田遺跡 48 四方田遺跡 49 後張遺跡 50 川越田遺跡 51 飯玉東遺跡

図2 周辺の遺跡

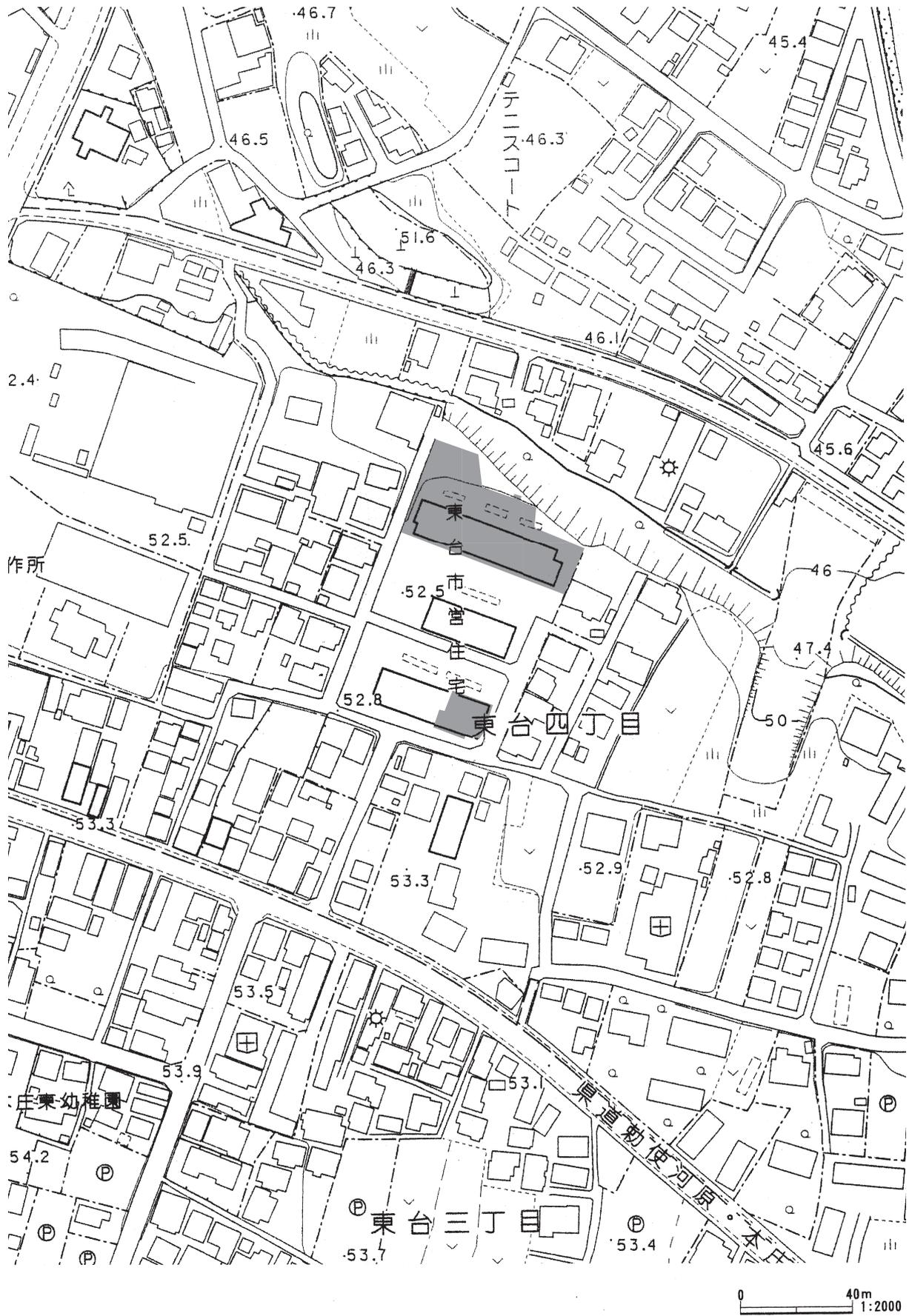


図3 天神林Ⅱ遺跡の位置図



图4 天神林Ⅱ遺跡A地点全体図

## Ⅱ 調査の成果

### 1 調査の概要

調査地点はA・Bの二区に分かれ、A区では竪穴住居8棟、土坑49基、溝15条ほか、多数のピットを検出している。調査区の東端には「大溝」と呼称した浅い埋没谷がある。谷の両側は、谷に向かう地山層の傾斜が認められ、その上を黒褐色の土層が被覆している。そのため、この範囲の遺構の確認は十分ではない。また、各所に大小の攪乱があり、竪穴住居の一部が破壊を被っている。竪穴住居は、古墳時代中期から平安時代、5～9世紀にかけての時期に該当する。分布状況は散漫で、住居跡の重複はほとんど見られない。その他の遺構は、一部を除き時期の明らかなものは少ない。全体に確認面から底床面までが浅く、各遺構が開削された当時よりも、地表面が相当程度削られていると推測され、既に消滅している遺構も多いだろう。一方、B区の調査では溝6条、土坑12基ほか多数のピットを検出しているが、住居は確認されず、また溝、土坑などの遺構からも遺物が出土していない。新しい時期の溝からも、土師器の小片が出土するA区に対して、台地の縁辺から70m余り離れたB区周辺までは、居住域として選択されたことがなかったであろう。

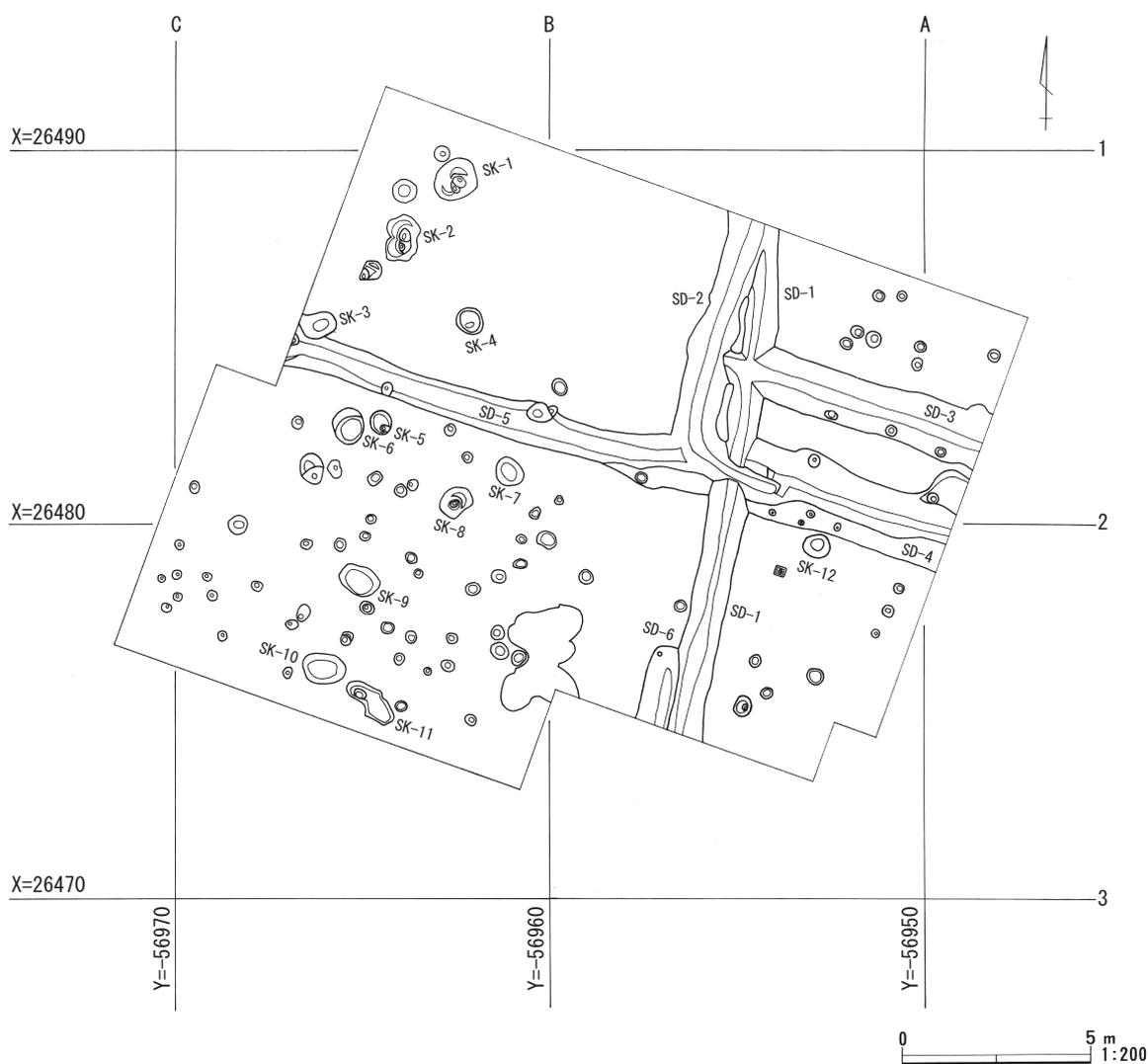


図5 天神林Ⅱ遺跡B地点全体図

## 2 住居

### SI-1 (図4・6)

調査区の北西端近くにあつて、F-2グリッドにかけて位置する。南側の1/4ほどをSD-1と重複し、攪乱により失っている。平面形は南北に長い長方形をなし長辺は推定約6.0m、短辺4.4mの規模を有する。確認面から床面までの深さは10cm前後と浅い。主軸方向は、ほぼN-0° -Eを示す。柱穴は検出されず、竈、貯蔵穴、壁溝など施設も確認されない。

遺物は、土師器坏3点、小型台付甕1点(図6)が出土しているものの、完形品は含まれない。

### SI-2 (図4・7・8)

調査区中央の西寄り、E-3からF-3グリッドにかけて位置する。東隅がSK-31と、西隅がSD-4と重複している。平面形は、ほぼ正方形をなし、一辺4.2mほどの規模を有する。確認面から床面までの深さは約20cmである。主軸方向はN-50° -Eを示す。柱穴は検出されていない。北壁の西寄りに、竈を付設している。竈は、左右の袖部が比較的良く残り、燃焼部が左右の壁よりも外側へ突出している。貯蔵穴、壁溝など施設は検出されていない。

遺物は覆土中から土師器を主体に多量に出土している(図7・8)。多くは住居としての機能途絶後に、遺棄されたものと考えられ、出土点数が多いにもかかわらず、完形品を含まない。土師器は坏、甕、小型台付甕のほか、棒状の三脚が付く大型の鉢がある。須恵器は坏蓋片1点が出土している。土師器三脚鉢(図8-27~31)は類例の少ない特殊な器形である。口径は25cmを超える大型品で、底部を広くつくり、体部外面には粗いヘラケズリの痕跡を残している。脚のつくりは中実式で、棒状粘土を表面にケズリを加えて整形し、ナデによる調整をあまり行わず、ケズリ面を明瞭に残している。三脚であることは、「鼎」との関連が考えられ、金属器を模倣した可能性もある。

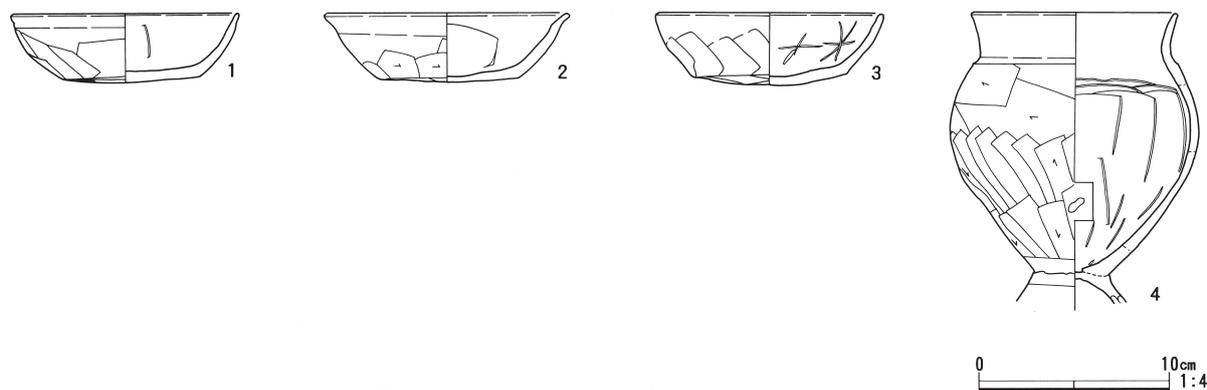


図6 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1出土遺物

SI-1 出土遺物観察表

1	土師器坏	A. 口径11.8。底径7.0。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・長石。E. 内外-橙色。F. 口縁一部欠損。
2	土師器坏	A. 口径12.7。底径7.4。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・下端~底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-橙色・外-明赤褐色。F. 2/3。
3	土師器坏	A. 口径11.8。底径8.2。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 内面にヘラ描き。
4	土師器台付甕	A. 口径10.7。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、脚部ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・長石。E. 内-橙色・外-黄橙色。F. 口縁と脚台部の一部欠損。

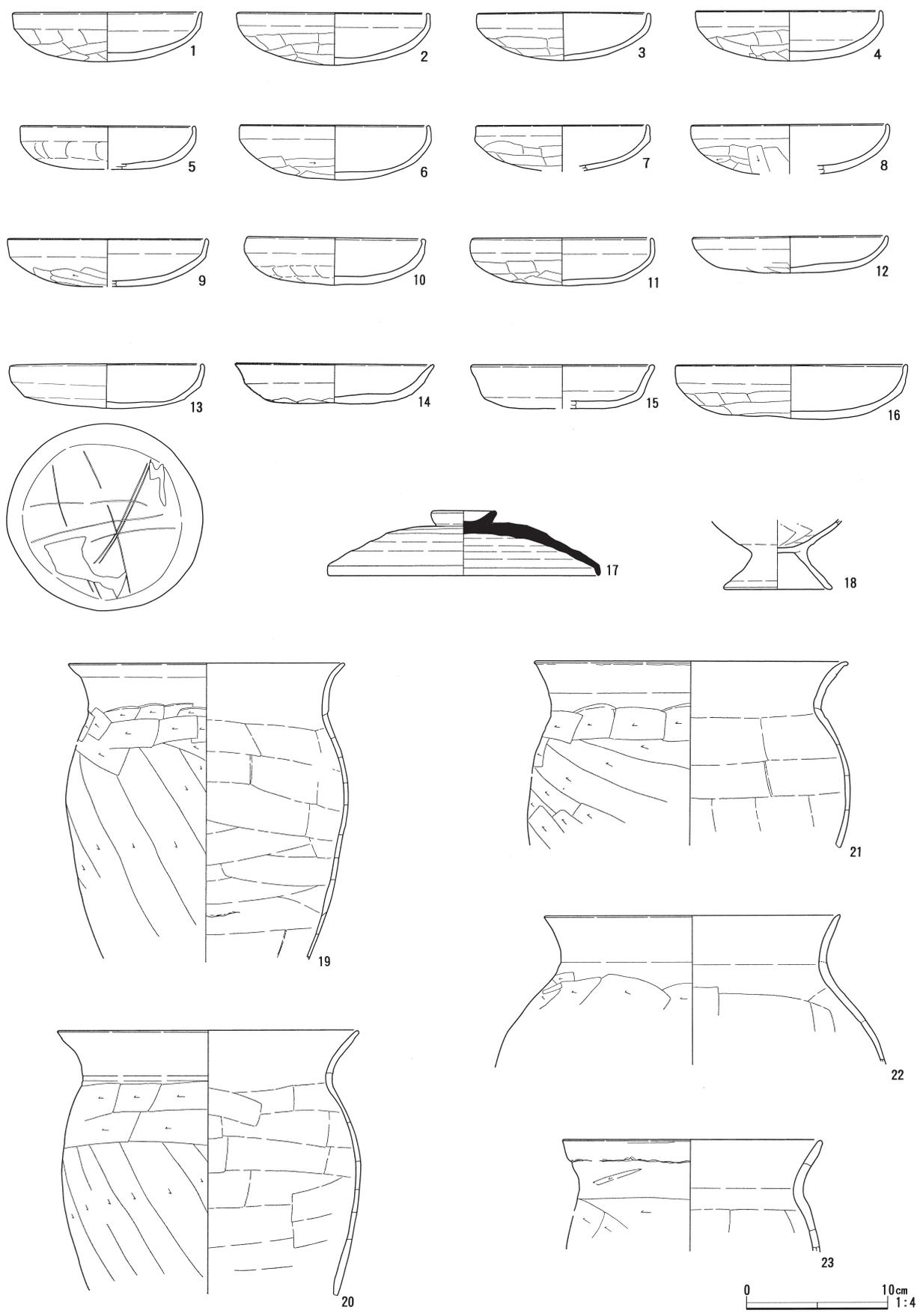


图7 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物(1)

SI-2 出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径(13.4)。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内-褐色・外-にぶい褐色。F. 2/3。
2	土師器 坏	A. 口径13.7。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内-明赤褐色・外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。
3	土師器 坏	A. 口径12.3。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。
4	土師器 坏	A. 口径(13.3)。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-褐色・外-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。
5	土師器 坏	A. 口径(12.4)。残存高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-橙色・外-にぶい褐色。F. 1/4。
6	土師器 坏	A. 口径(13.5)。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明褐色。F. 2/3。
7	土師器 坏	A. 口径(12.3)。残存高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。
8	土師器 坏	A. 口径(14.0)。残存高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・褐色粒。E. 内-黄褐色・外-橙色。F. 1/3。
9	土師器 坏	A. 口径(14.2)。残存高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内-暗褐色・外-褐色。F. 1/4。
10	土師器 坏	A. 口径(12.8)。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内-にぶい褐色・外-明赤褐色。F. 3/4。
11	土師器 坏	A. 口径13.1。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-明赤褐色・外-明褐色。F. 2/3。
12	土師器 坏	A. 口径(13.9)。器高2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-にぶい黄褐色・外-にぶい褐色。F. 1/4。
13	土師器 坏	A. 口径13.6。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ナデ。内面、ナデ。D. 角閃石・褐色粒・白色粒。E. 内外-褐色。F. ほぼ完形。G. 外面底部、線条痕。
14	土師器 坏	A. 口径14.1。器高2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。
15	土師器 坏	A. 口径(13.1)。残存高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、底部ヘラケズリか。内面、ナデ、口縁部玉縁状。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。
16	土師器 坏	A. 口径16.3。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・赤色粒・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。
17	須恵器	A. 口径4.6。底径(19.4)。器高4.6。B. ロクロ成形。C. 外面、頂部回転ヘラケズリ。D. 白色粒。E. 内外-褐灰色。F. 1/3。
18	土師器 高	A. 底径7.7。残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ。内面、体部ヘラナデ、脚部ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-にぶい黄褐色・外-明赤褐色。F. 脚部完存。
19	土師器 甕	A. 口径19.4。残存高21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-褐色・外-にぶい褐色。F. 1/2。
20	土師器 甕	A. 口径21.2。残存高23.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-黒色・外-にぶい褐色。F. 3/4。
21	土師器 甕	A. 口径22.1。残存高13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒・黒色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 4/5。
22	土師器 甕	A. 口径20.8。残存高10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-褐色。F. 3/4。
23	土師器 甕	A. 口径18.3。残存高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-褐色。F. 4/5。
24	土師器 甕	A. 底径5.1。残存高17.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、体部・底部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-褐色。F. 3/4。
25	土師器 甕	A. 底径7.7。残存高8.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、体部・底部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-褐色・外-にぶい黄褐色。F. 4/5。
26	土師器 甕	A. 底径7.6。残存高8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、体部・底部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-褐色。F. 4/5。
27	土師器 三脚鉢	A. 口径26.2。底径17.2。器高26.5。B. 粘土紐積み上げ、脚部手捏ね。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ、脚部ナデ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-褐色。F. 4/5。G. 2脚残存。

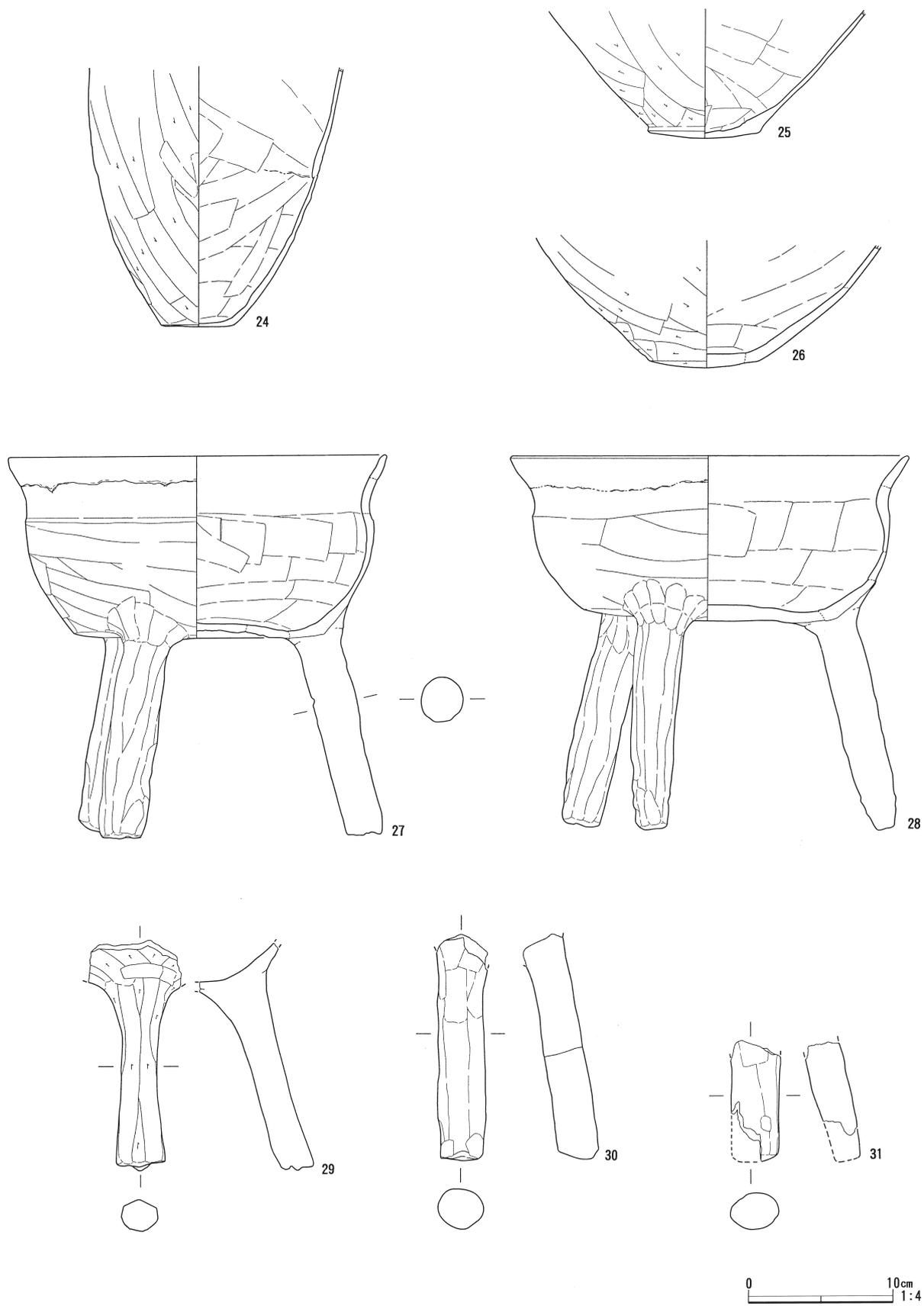


图8 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物(2)

28	土師器鉢 三脚	A. 口径 27.5。底径 17.5。器高 26.0。B. 粘土紐積み上げ、脚部手捏ね。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ、脚部ナデ。内面、体部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外 - 橙色。F. 3/4。G. 2脚残存。
29	土師器鉢 三脚	A. 径 2.1 ~ 2.5。残存高 15.8。B. 手捏ね。C. ヘラケズリ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外 - 橙色。F. 脚部完形。
30	土師器鉢 三脚	A. 径 2.8 ~ 3.3。残存高 15.5。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外 - にぶい赤褐色。F. 脚部完形。G. 粘土少量付着。
31	土師器鉢 三脚	A. 径 2.6 ~ 3.3。残存高 8.0。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外 - にぶい赤褐色。F. 脚部 1/3。G. 粘土少量付着。

### SI-3 (図4・9)

調査区の北端近くにあつて、D-2からE-2グリッドにかけて位置する。平面形は整った長方形で、長辺4.7m、短辺3.7mの規模を有する。確認面から床面までの深さは10~15cmである。主軸方向はN-45°-Eを示す。柱穴は4箇所確認できるが、竈、貯蔵穴、壁溝は検出していない。遺物は覆土から土師器坏1点(図9)を出土している。全体に磨耗していることから、本住居に伴うものではない。柱穴が通常の竪穴住居に比べて四隅に寄った位置にあり、古代以降の竪穴建物の可能性も考えられる。



図9 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3出土遺物

### SI-3 出土遺物観察表

1	土師器坏	A. 口径(14.8)。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内 - 橙色・外 - 明赤褐色。F. 1/2以下。G. 内面磨耗。
---	------	--

### SI-4 (図4・10)

調査区中央のやや西寄りにあつて、E-3からF-4グリッドにかけて位置する。SD-5と重複している。平面形は歪んだ長方形で、長辺5.3m、短辺4.1mの規模を有する。確認面から床面までの深さは約15cmである。主軸方向はN-45°-Eを示す。床面にはピット状の落ち込みが複数観察されるが、いずれも支柱穴ではなく、竈、貯蔵穴、壁溝も検出されていない。

遺物は、覆土から土師器坏と甕各1点(図10)のほか、土師器甕の小片を出土している。

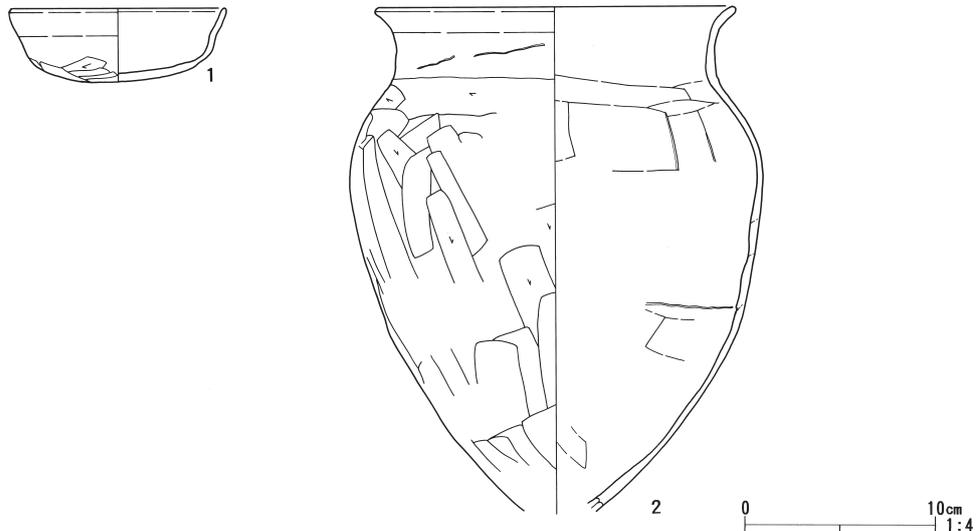


図10 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4出土遺物

SI-4 出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径(11.3)。底径一。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 1/4以上。G. 内面磨耗。
2	土師器 甕	A. 口径(18.7)。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面、 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 角閃石・黒色粒・赤褐色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2以下。

SI-5 (図4)

調査区中央の南端近くにあつて、F-4・5グリッドに位置する。平面形は整った長方形で、長辺4.7m、短辺3.7mの規模を有する。確認面から床面までの深さは約15cmである。主軸方向はN-45° -E を示す。床面にはピット状の落ち込みが複数観察されるが、いずれも支柱穴ではない。北壁の東寄りに、竈を付設している。竈は、左右の袖部が比較的良く残り、燃烧部が左右の壁よりも外側へ突出している。貯蔵穴、壁溝など施設は検出されていない。遺物は検出されていない。

SI-6 (図4・11)

調査区の北端近くにあつて、C-3からD-3グリッドにかけて位置する。住居の北半を、SD-7が「V」字状に重複している。平面形は整った長方形で、長辺4.7m、短辺3.7mの規模を有する。確認面から床面までの深さは10~15cmである。主軸方向はN-45° -E を示す。床面にはピット状の落ち込みが複数観察されるが、いずれも支柱穴ではなく、竈、貯蔵穴、壁溝など施設は検出されていない。

遺物は、床面からやや上の水準で、須恵器高台塚1点(図11)を検出しているほか、土師器の小片を少量出土している。須恵器高台塚は、焼成がやや軟質で、白味がかかった色調を呈し、暗赤褐色の粒子の混入が目立つ。



図11 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6出土遺物

SI-6 出土遺物観察表

1	須恵器 高台塚	A. 口径14.0。底径6.6。器高5.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、ロクロナデ。D. 暗赤褐色粒・片岩。E. 内外-灰黄色。F. 1/2。
---	------------	---

SI-7 (図4・12)

調査区中央のやや東寄りにあつて、D-4グリッドに位置する。北半がSD-8・9と重複し、原形を確認できないが、南東隅が直角をなし、東壁および南壁が直線的に検出されていることから、比較的整った方形を呈する住居であったと推測される。確認面から床面までの深さは15cm前後である。主軸方向はN-35° -E を示す。柱穴や竈、貯蔵穴、壁溝など施設は検出されていない。

遺物は、覆土から土師器坏3点、須恵器高台塚1点のほか、少量の土師器片を検出している。図化した4点は、いずれも完形品ではなく、廃絶後の住居跡に遺棄された遺物である可能性が考えられる。土師器坏3点(図12-1~3)は、底部が厚く、体部が直線状に開き、口縁部が緩やかに内屈する器形が特徴的である。体部外面に、指頭圧痕が目立つ点も、やや特異といえる。3の底部外面には、砂

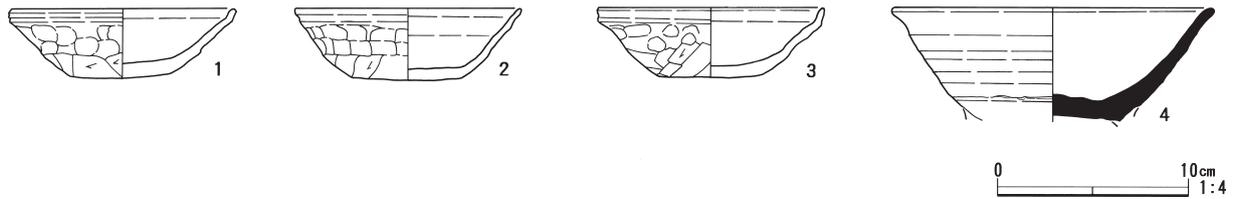


図12 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-7出土遺物

SI-7 出土遺物観察表

1	土師器 杯	A. 口径11.8。底径4.5。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、体下部へラケズリ、底部へラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・長石・赤褐色粒。E. 内-明赤褐色・外-橙色。F. 4/5。
2	土師器 杯	A. 口径12.0。底径6.0。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、体下部へラケズリ、底部へラナデ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・長石・赤褐色粒。E. 内-橙色・外-にぶい赤褐色。F. 1/2以上。
3	土師器 杯	A. 口径12.0。底径5.5。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、体下部へラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・長石・赤褐色粒。E. 内-暗赤褐色・外-にぶい赤褐色。F. 3/4。G. 底部砂目付着。
4	須恵器 壺	A. 口径17.0。底径—。器高6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、ロクロナデ。D. 長石・暗赤褐色粒。E. 内外-灰色。F. 3/4。

目の付着が観察される。4は大型の須恵器壺で、SI-6の須恵器高台壺と同じく、暗赤褐色粒子の混入が認められる。

SI-8 (図4・13)

調査区中央のやや東寄りにあって、D-4グリッドに位置する。SI-7と同じく、大半がSD-8・9と重複し、北隅角が直角より開き気味であることから、やや歪んだ方形を呈していたことが想定される。確認面から床面までの深さは10~15cm程度である。主軸方向はN-40° -E前後と推測される。柱穴や竈、貯蔵穴、壁溝など施設は検出されていない。SD-9により分断されているため、確認はできないが、北隣のSI-7と重複関係にあったことは明らかである。ただし、出土遺物の様相が示すように、二つの住居の帰属時期は大きく異なる。

遺物は、ほぼ完形に復原される和泉式期の土師器高杯2点(図13-1・2)のほか、少数の土師器片が出土している。1の杯部には放射状の暗文が観察される。2は丁寧なつくりで、表面は全体に磨耗しているものの、脚部にはミガキの痕跡が残る。

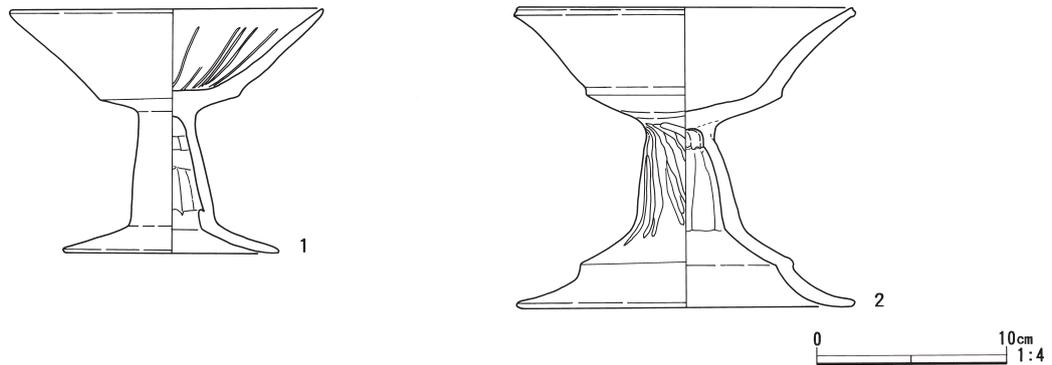


図13 天神林Ⅱ遺跡A地点SI-8出土遺物

SI-8 出土遺物観察表

1	土師器 高杯	A. 底径16.5。底径11.3。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内面、杯部放射線状のミガキ、脚部へラケズリ。D. 微砂粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面磨耗。
2	土師器 高杯	A. 底径17.6。底径17.7。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、脚部ミガキ。内面、脚部へラケズリ、脚部へラケズリ。D. 白色粒・角閃石・赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 脚部以外内外面磨耗。

### 3 土坑

土坑は2地点の調査区内の各所に検出され、A区で49基、B区12基を確認しているが、遺物を伴う例はほとんどない。その中で、A区ではSK-1からは、多数の土師器坏が、一括で出土している。

A区SK-1は、C-3グリッドにあつて、SI-6の東壁から1mほど東に離れ、北側には近接してSD-7が北西から南東方向に走向している。規模は上端径約60cm、底径30cm、深さ40cmを測る。

出土した土師器坏は計22点で、器形、法量ともに、相似した資料で占められる(図14)。また、完形ないしほぼ完形の個体7点を含み、その他の個体も残存度が高く、他の器種については、破片も含まない。出土状況は、内面を上にして、入れ子にして重ね、3つないし4つのまとまりとして、土坑に置かれており、無造作に投棄されたものではなく、土坑内へ「埋納」ないし「保管」した様相を看取できる。

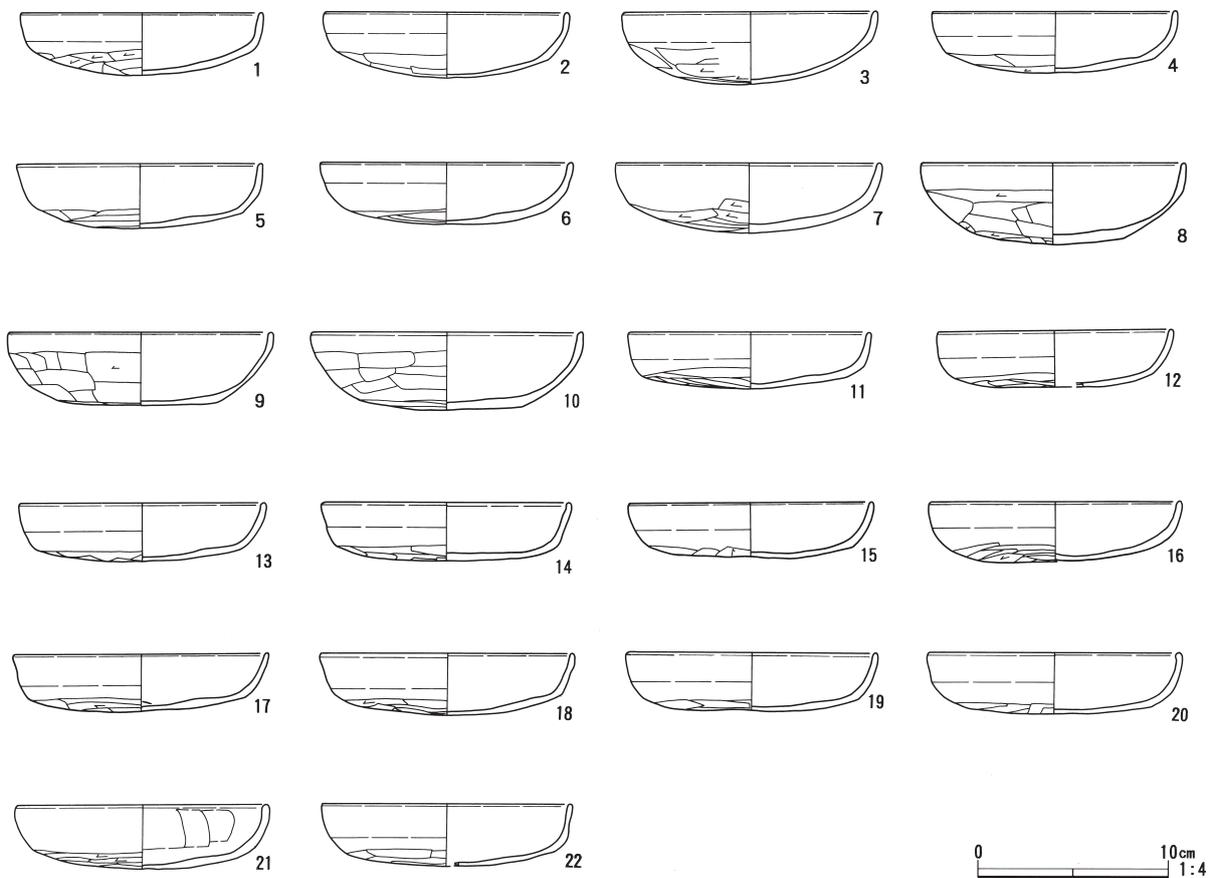


図14 天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1出土遺物

SK-1 出土遺物観察表

1	土師器坏	A. 口径12.6。底径一。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。D. 角閃石・暗赤褐色粒・長石。E. 内-橙色・外-明赤褐色。F. ほぼ完形。内面磨耗。
2	土師器坏	A. 口径12.8。底径一。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部へラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。内面磨耗。
3	土師器坏	A. 口径13.4。底径一。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。
4	土師器坏	A. 口径12.8。底径一。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。内面磨耗。

5	土師器 坏	A. 口径12.8。底径一。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 3/4以上。
6	土師器 坏	A. 口径13.2。底径一。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4以上。
7	土師器 坏	A. 口径14.0。底径一。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-明赤褐色・外-にぶい赤褐色。F. 3/4以上。
8	土師器 坏	A. 口径(13.8)。底径一。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2以上。内面磨耗。
9	土師器 坏	A. 口径(13.8)。底径8.2。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・黒色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。内面磨耗。
10	土師器 坏	A. 口径(14.2)。底径8.7。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-明赤褐色・外-橙色。F. 3/4以下。内面磨耗。
11	土師器 坏	A. 口径12.7。底径一。器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。
12	土師器 坏	A. 口径(12.4)。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。
13	土師器 坏	A. 口径(12.9)。底径一。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・黒色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。内面磨耗。
14	土師器 坏	A. 口径13.0。底径一。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-橙色・外-にぶい赤褐色。F. 3/4以上。
15	土師器 坏	A. 口径12.8。底径一。器高2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・黒色粒。E. 内-橙色・外-明赤褐色。F. 1/4以上。
16	土師器 坏	A. 口径13.2。底径一。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。内面磨耗。
17	土師器 坏	A. 口径13.2。底径一。器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4以下。
18	土師器 坏	A. 口径13.4。底径一。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-橙色・外-明赤褐色。F. ほぼ完形。
19	土師器 坏	A. 口径12.6。底径一。器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。内面磨耗。
20	土師器 坏	A. 口径13.2。底径一。器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。内面磨耗。
21	土師器 坏	A. 口径13.2。底径一。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4以上。
22	土師器 坏	A. 口径13.1。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4以上。内面磨耗。

#### 4 溝

溝はA区で15条、B区で6条を検出しているが、A区の溝は走向に規則性がなく、斜交する溝も見られるように、相互に有意な関係にあると判断されるものはない。遺物の出土量も、土坑と同様に、一部を除いて非常に少なく、積極的な根拠はないものの、近世以降に下る新しい時期の溝も含まれるだろう。これに対してB区は、調査範囲が限定されているため確定的ではないが、相互に交差しつつも東西、南北に一定の法則性が見られる。

#### A 区

##### SD-1 (図4・15・16)

F-2・3、G-2・3グリッドにかけて屈曲しながら走行する浅い溝で、SI-1と重複している。遺物は、土師器坏、須恵器坏、土錘、砥石各1点のほか、SI-2で出土した土師器三脚鉢の脚部のみ14点を検出している。とくに、土師器三脚鉢は、鉢本体の破片が見られず、鉢から破損、離脱した脚部のみが投棄された状態で出土している。砥石は流紋岩製で、砥面を4面残し、端部に敲打痕が観察される。

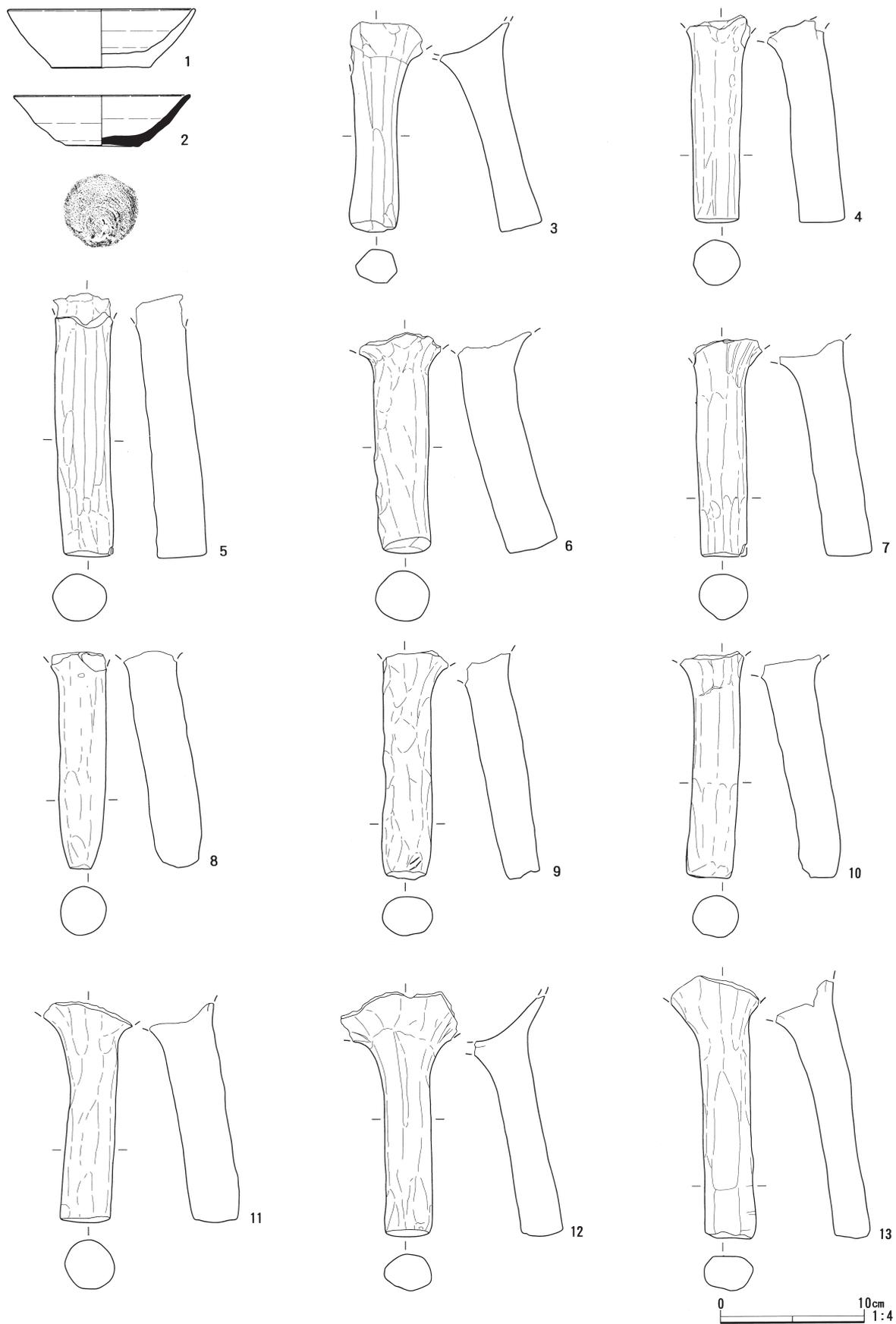


图15 天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物(1)

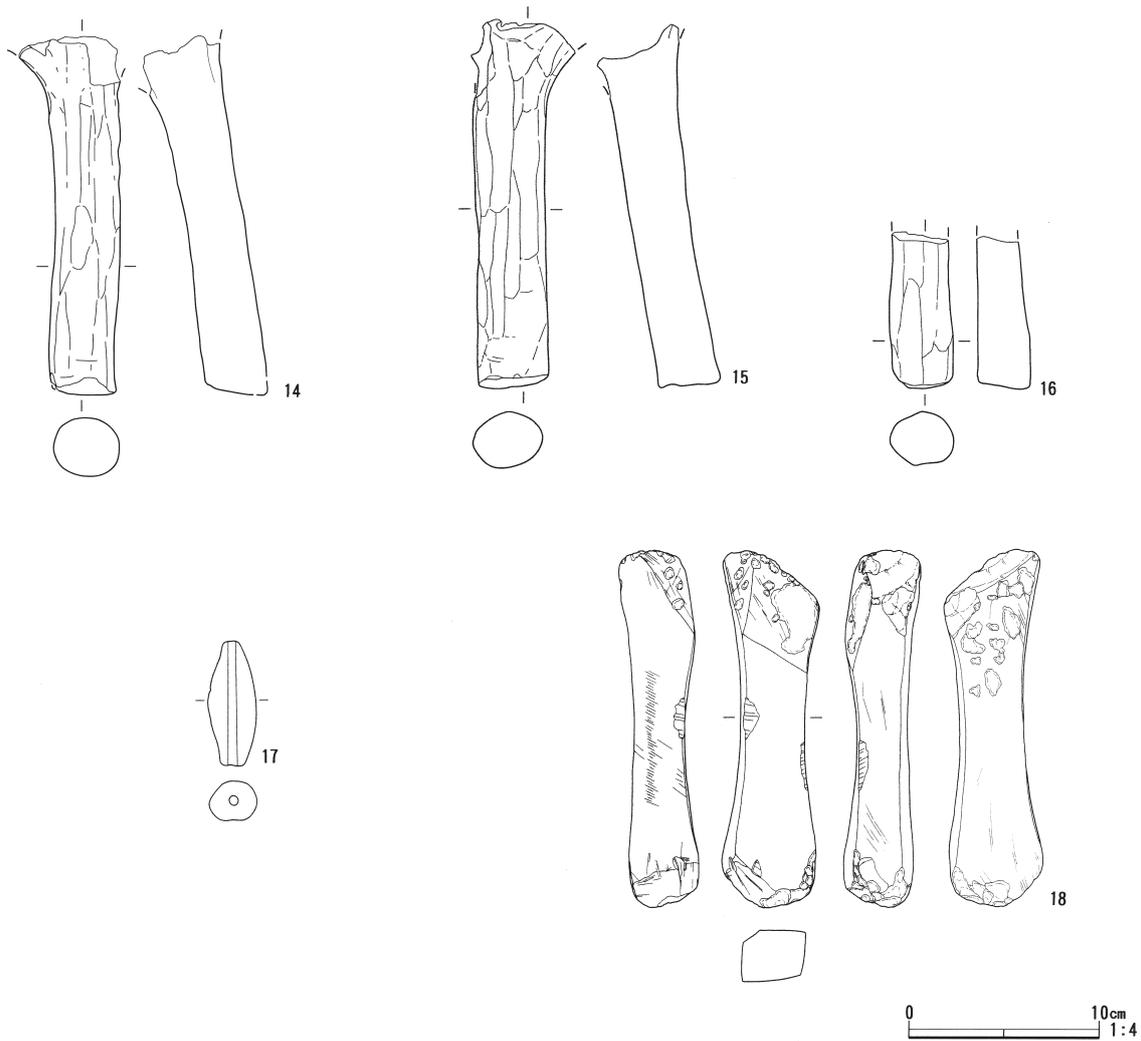


図16 天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物（2）

SD-1 出土遺物観察表

1	土師器 師杯	A. 口径(13.1)。器高4.1。底径(6.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. D. 白色粒・赤色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。
2	須恵器 須恵杯	A. 口径12.3。底径5.0。器高3.6。B. ロクロ成形。C. 底部回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 2/3。G. 器面磨滅。
3	土師器 土脚鉢	A. 径2.4～3.4。残存高14.7。B. 手捏ね。C. ヘラケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
4	土師器 土脚鉢	A. 径3.0～3.5。残存高14.6。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
5	土師器 土脚鉢	A. 径3.4～3.8。残存高18.4。B. 手捏ね。C. ナデ・ヘラケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
6	土師器 土脚鉢	A. 径3.4～3.8。残存高15.5。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・黒色粒。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
7	土師器 土脚鉢	A. 径3.2～3.4。残存高15.2。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・赤色粒・角閃石。E. にぶい褐色。F. 脚部完形。
8	土師器 土脚鉢	A. 径1.5～3.5。残存高15.2。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
9	土師器 土脚鉢	A. 径2.8～3.5。残存高16.0。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
10	土師器 土脚鉢	A. 径3.1～3.3。残存高15.9。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい橙色。F. 脚部完形。

11	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 3.1～3.5。残存高 15.5。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
12	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 3.0～3.4。残存高 17.2。B. 手捏ね。C. ヘラケズリ。D. 白色粒・赤色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
13	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 3.3～3.5。残存高 18.4。B. 手捏ね。C. ヘラケズリ。D. 白色粒・黒色粒。E. 褐色。F. 脚部完形。
14	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 3.4～3.5。残存高 19.0。B. 手捏ね。C. ナデ・ヘラケズリ。D. 白色粒・黒色粒。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
15	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 3.5～3.8。残存高 19.7。B. 手捏ね。C. ナデ・ヘラケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 脚部完形。
16	土 三	師 脚	器 鉢	A. 径 2.9～3.2。残存高 8.3。B. 手捏ね。C. ヘラケズリ。D. 白色粒・黒色粒。E. にぶい橙色。F. 脚部欠損。
17	土 土	製 品	品 錘	A. 長さ 6.7。最大幅 2.6。厚さ 2.1。重さ 29.7。孔径 0.5。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. にぶい褐色。F. 完形。
18	石 砥	製 品	品 石	A. 長さ 18.9。最大幅 5.2。厚さ 4.2。重さ 411.7。B. ケズリ。C. 砥面 4 面。上下敲打痕。D. 流紋岩。F. 一部欠損。

#### SD-2 (図 4・17)

G-3グリッドにあって、SD-1と交差し、調査区外の西方へ延びている。SD-1がSD-2との交点でとどまり、西側へは延長しないところを見ると、両遺構は一連の溝として機能していたことが考えられる。遺物は土師器坏、小型鉢各 1 点を検出している。

#### SD-3 (図 4)

F-3グリッドにあって、SD-1から派生するように東方へ 6 m ほど延びる溝である。中間でSD-13と交差している。地山層への掘り込みが非常に浅いことから、旧地表層の侵食に伴って、相当の範囲が消滅していると考えられる。

#### SD-4 (図 4)

F-3からE-1、F-1グリッドにかけて走行する溝である。E-2グリッドで二股に分かれ、台地端部に向かって、調査区外の北方へ延びている。SI-2と交差し、これより台地の奥部へは延伸していないが、SD-3と同様に、地山層への掘り込みが非常に浅いことから、SI-2以南の範囲は、旧地表層の侵食に伴って、消滅していると考えられる。

#### SD-5 (図 4)

SI-4と交差して、F-4からE-3グリッドにかけて走行する溝である。E-3グリッドで急激に深さを減じて消滅しているが、本来は台地の端部に向かってさらに延伸していたと思われる。覆土から、少量の土師器片が出土している。

#### SD-6 (図 4)

調査区の北端にあって、D-3グリッドで「コ」の字形に検出されているが、東側と西側は調査区外に延びて全体の形状を確認できない。確認面以下の掘り込みは、深く明瞭である。確認の範囲で推測すれば、何らかの平地式建物を圍繞する目的の溝であったと考えるのが妥当であろう。覆土から、少量の土師器片が出土している。

#### SD-7 (図 4)

D-4からC-3グリッドにかけて走行し、SI-6と重複しながら鋭角に屈曲し、SD-8と交差して、C-4グリッドで埋没谷にかかり、確認できなくなっている。覆土から、少量の土師器片が出土している。

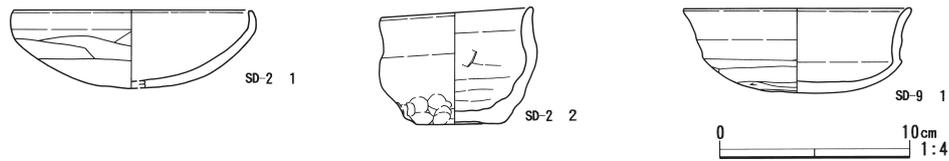


図17 天神林Ⅱ遺跡A地点SD-2・9出土遺物

SD-2 出土遺物観察表

1	土師器 杯	A. 口径12.4。底径—。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・石英・長石。E. 内外- 橙色。F. 4/5。
2	手捏土器 小形鉢	A. 口径8.0。底径4.5。器高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、胴部下半部指頭痕。内面、口縁部ヨコナデ、胴部指ナデ。D. 角閃石・微砂粒。E. 内外- にぶい赤褐色。F. 3/4。G. 底部外面被熱痕と荒れ。

SD-9 出土遺物観察表

1	土師器 杯	A. 口径10.0。底径—。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内- にぶい黄橙色。外- にぶい橙色。F. ほぼ完形。
---	----------	---

SD-8 (図4)

F-5からC-3グリッドにかけて、調査区を横断するように長く直線的に走行する。覆土から、少量の土師器片、須恵器片が出土している。

SD-9 (図4・17)

F-5からC-4グリッドに延び、緩やかに屈曲して東へ折れ、埋没谷に向かって延伸し、埋没谷と重複した地点では、確認できなくなっている。遺物は、覆土から、土師器杯1点を検出しているほか、少量の土師器片、須恵器片が出土している。

SD-10 (図4)

C-5、D-5グリッドにあって、SD-9と11と直交し、二つの溝の間を連絡するように、直線的に延びる溝である。覆土から、少量の土師器片が出土している。

SD-11 (図4)

調査区の南端にあって、D-5グリッドで、SD-9と並行するように、ほぼ直角に東へ折れ、埋没谷に向かって走行している。SD-9・10と関係をもって機能していた可能性が考えられる。覆土から、少量の土師器片が出土している。

SD-12 (図4)

F-1・2グリッドにおいて南北に走行する溝で、台地の端部に向かって調査区外の北方へ延びている。覆土から、少量の土師器片が出土している。

SD-13 (図4)

G-4からF-2グリッドにかけて緩やかに蛇行しながら走向する溝である。SD-4・12とほぼ同じ走向をとる。確認面からの掘り込みが浅い。

SD-14 (図4)

調査区の南端にあって、F-4・5グリッドにおいて緩やかに蛇行しながら走行する溝である。SD-13と同じ走向をとる、確認面からの掘り込みは深い。覆土から、少量の土師器片、須恵器片が出土している。

SD-15 (図4)

D-5グリッドにおいて、屈曲しながら走行するSD-1に類似した、幅が広く浅い溝である。複数の土坑と交差している。覆土から、少量の土師器片が出土している。

## B 区

調査範囲が限定されているものの、B区で検出された溝は、走向に一定の法則性が見られることは、先述の通りである（図5）。遺物がまったく出土していないために、帰属時期についての確証はないが、中世の区画溝に類似した配置が見られる点には留意すべきであろう。方位だけに注目すれば、A区において確認したSD-9～11の走向とほぼ同様であり、帰属時期の如何は別にしても、A・B二つの地点の調査区にまたがって、関連する区画溝が広く展開するような土地利用の歴史があった可能性を確認できるだろう。

## 5 大溝

A区の東端にあって、等高線に直交するように、北側の崖線に向かって走行している幅の広い谷状の落ち込みである（図4・18）。この落ち込みに向かって、東西両岸の地山層が、緩やかな傾斜を見せていることから、本来が自然的な地形であり、台地端部に向かって開口する埋没谷の一部と見て誤りないだろう。

この埋没谷に対して、人工的な開削が加えられていたか否かについての確認は十分ではないが、表土掘削後の確認面検出作業時に、各種の遺物を出土していることから、周囲の集落等に居住した人間と無関係に存在したわけではないことがわかる。出土した遺物のほとんどは、本調査区において検出された住居等の出土遺物の年代と重なることから、付近の集落における人的な活動に伴い排出された器物が主体を占めると推測される。

大溝 出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径11.8。底径7.9。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・長石・暗赤褐色粒。E. 内-橙色・外-にぶい橙色。F. 3/4。
2	土師器 坏	A. 口径13.1。底径8.1。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。内面磨耗。
3	土師器 坏	A. 口径14.0。底径6.9。器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・暗赤褐色粒・微砂粒。E. 内外-橙色。F. 口縁一部欠損。
4	土師器 鉢	A. 口径19.2。底径一。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。D. 角閃石・長石・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。内面磨耗。
5	須恵器 埴	A. 口径13.9。底径6.1。器高5.3。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ、底部回転糸切離し。内面、ロクロナデ。D. 角閃石・石英・長石・黒色粒。E. 内外-灰白色。F. 1/2。ロクロ右回転。
6	須恵器 埴	A. 口径16.4。底径6.6。器高6.8。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部～体部ロクロナデ、底部回転糸切離し。内面、ロクロナデ。D. 片岩・赤褐色粒。E. 内外-灰白色。F. 3/4。外面磨耗。
7	土師器 小型 甕	A. 口径8.3。底径3.4。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 3/4以上。
8	土師器 小型 甕	A. 口径12.9。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 角閃石・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。
9	土師器 鉢	A. 口径(18.7)。底径9.4。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。D. 角閃石・石英。E. 内-にぶい橙色・外-橙色。F. 3/4。
10	土師器 甕	A. 口径21.0。底径2.9。器高25.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、底面ハケナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒・長石・チャート。E. 内外-橙色。F. 3/4以上。
11	土師器 甕	A. 口径20.3。底径(2.7)。器高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、頭部ヘラナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底面ハケ目。D. 角閃石・石英・長石・赤褐色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
12	土師器 甕	A. 口径20.3。底径(3.8)。器高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部上半部ヘラナデ、胴下半部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・長石・暗赤褐色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 3/4以上。
13	砥石	A. 長さ14.2。幅4.6。厚さ4.0。重さ1368.0。D. 流紋岩。

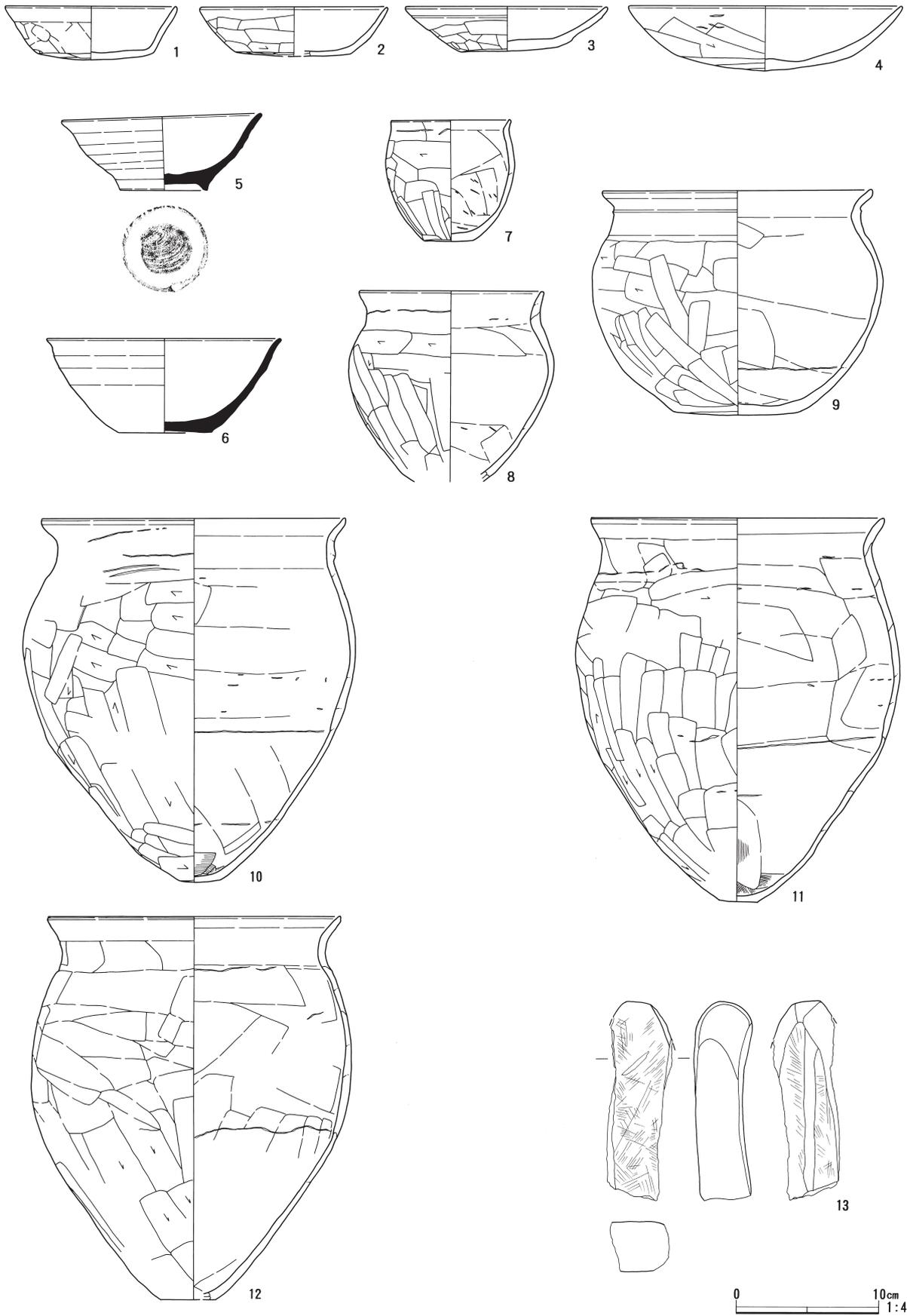


图18 天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物

## 6 調査区一括出土遺物

表土掘削時の遺構確認面上層や攪乱坑に含まれていた遺物など、特定の遺構に伴わない出土資料を調査区一括出土遺物としてまとめた（図19・20）。細片も多く、図化できない資料も多い。図化した遺物には、各種の土師器、須恵器のほかに、土錘、縄文土器、打製石斧、台石、円筒・形象埴輪片、播鉢、鉄製刀子、砥石など多様な資料が含まれる。

1～21は土師器坏埴輪類、22～27は須恵器坏類、28～30は土師器甕で、古墳時代後期から平安期までの資料が含まれる。31～55は土錘である。大小の差が顕著で、これらの土錘が用いられた網も、用途に応じて多種存在したことが想像される。56・57は縄文土器片で、ともに前期の資料である。58の打製石斧、59の台石も、縄文前期以降の資料であろう。

60～62は円筒埴輪の破片で、胎土に角閃石を含むことから、利根川流域に立地する埴輪窯で生産されたものであることがわかる。63は鞍形埴輪の側方につく下段の背負板の破片である。埴輪は色調や焼成などから、いずれも古墳時代後期に下る資料である。これまでのところ、天神林Ⅱ遺跡では、当該時期の古墳の存在は知られていない。古墳の造営停止以降、奈良・平安時代の集落において、埴輪が二次的に利用される場面があったのであろう。64は播鉢で、ロクロ成形、黒色処理がなされており、中世に下る資料である。中世期の土器類は、旭・小島古墳群、本庄城跡、薬師堂東遺跡など、天神林Ⅱ遺跡と同じく本庄台地縁辺部に立地する複数の遺跡においても散見する資料で、15世紀後半の「五十子陣」もしくは16世紀の「本庄城」の構築に伴って搬入されたものと考えられる。

調査区一括出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径9.7。底径5.5。器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、ヘラナデ。D. 角閃石・暗赤褐色粒・砂粒。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 3/4。G. 内面消耗。
2	土師器 坏	A. 口径(11.8)。底径一。器高2.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/4。
3	土師器 坏	A. 口径(12.1)。残存高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-明褐色。F. 1/4。
4	土師器 坏	A. 口径12.7。底径7.5。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2以上。G. 内外面消耗。
5	土師器 坏	A. 口径12.6。底径8.4。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部一部欠損。G. 内外面磨耗。
6	土師器 坏	A. 口径12.1。底径7.2。器高3.6。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ、底部回転糸切離し。D. 角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/2以下。
7	土師器 坏	A. 口径(13.4)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリか。内面、ナデ。D. 赤色粒・角閃石。E. 内外-橙色。G. 器面脆弱。
8	土師器 坏	A. 口径13.3。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒子・赤色粒。E. 内外-橙色。F. 4/5。
9	土師器 坏	A. 口径13.1。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラケズリか。内面、ナデ。D. 赤色粒・白色粒。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 器面脆弱。
10	土師器 坏	A. 口径(13.1)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、有段状。外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒。E. 内-褐灰色・外-にぶい褐色・褐灰色。F. 2/3。
11	土師器 坏	A. 口径15.0。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内-外褐色。F. 1/2以下。
12	土師器 坏	A. 口径(11.6)。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面、ヨコナデ、口縁端部玉縁状。D. 角閃石・白色粒。E. 内-明褐色・外-橙色。F. 4/5。
13	土師器 坏	A. 口径(12.6)。残存高3.9。B. C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-明褐色。F. 1/2。

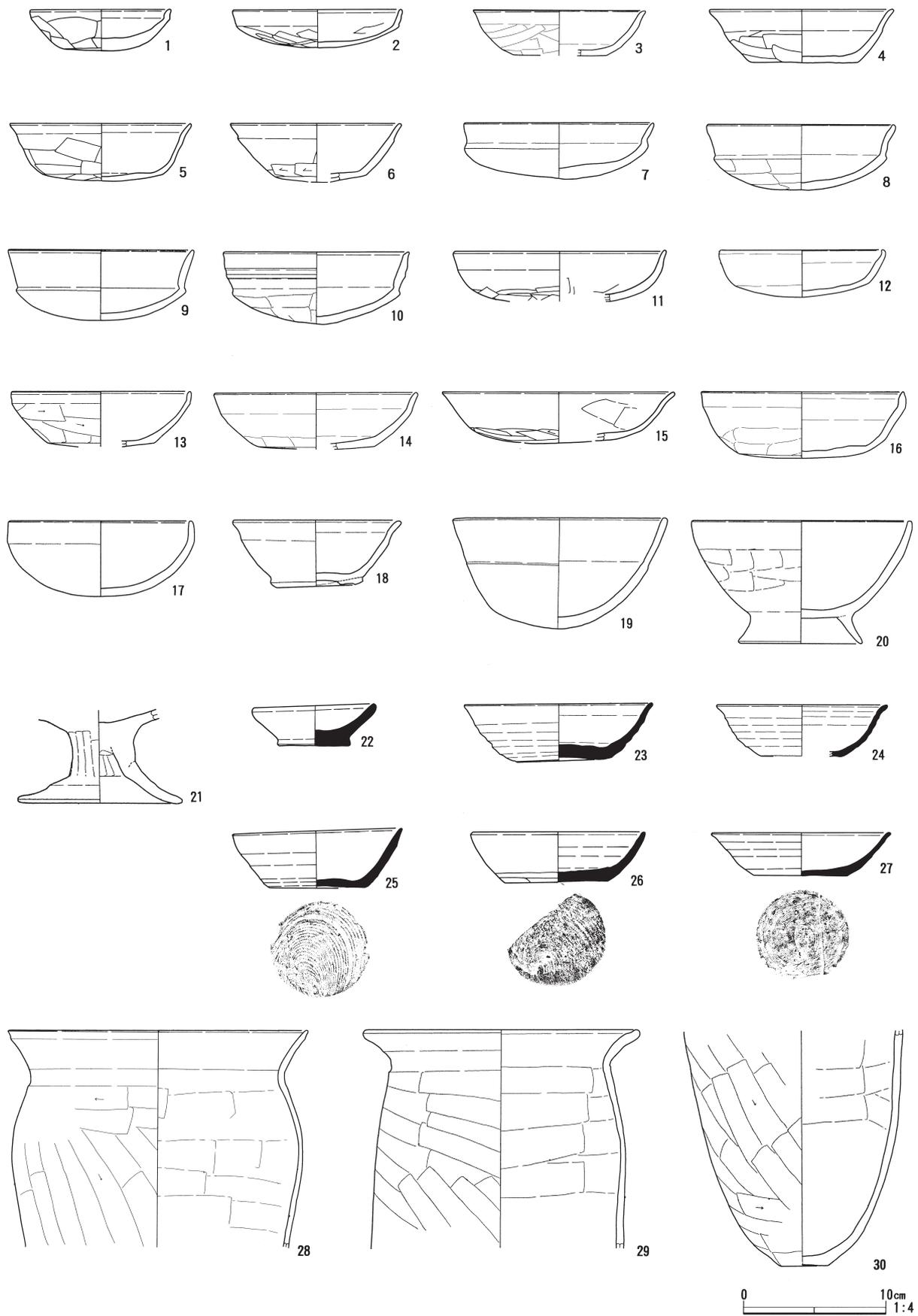


图19 天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物（1）

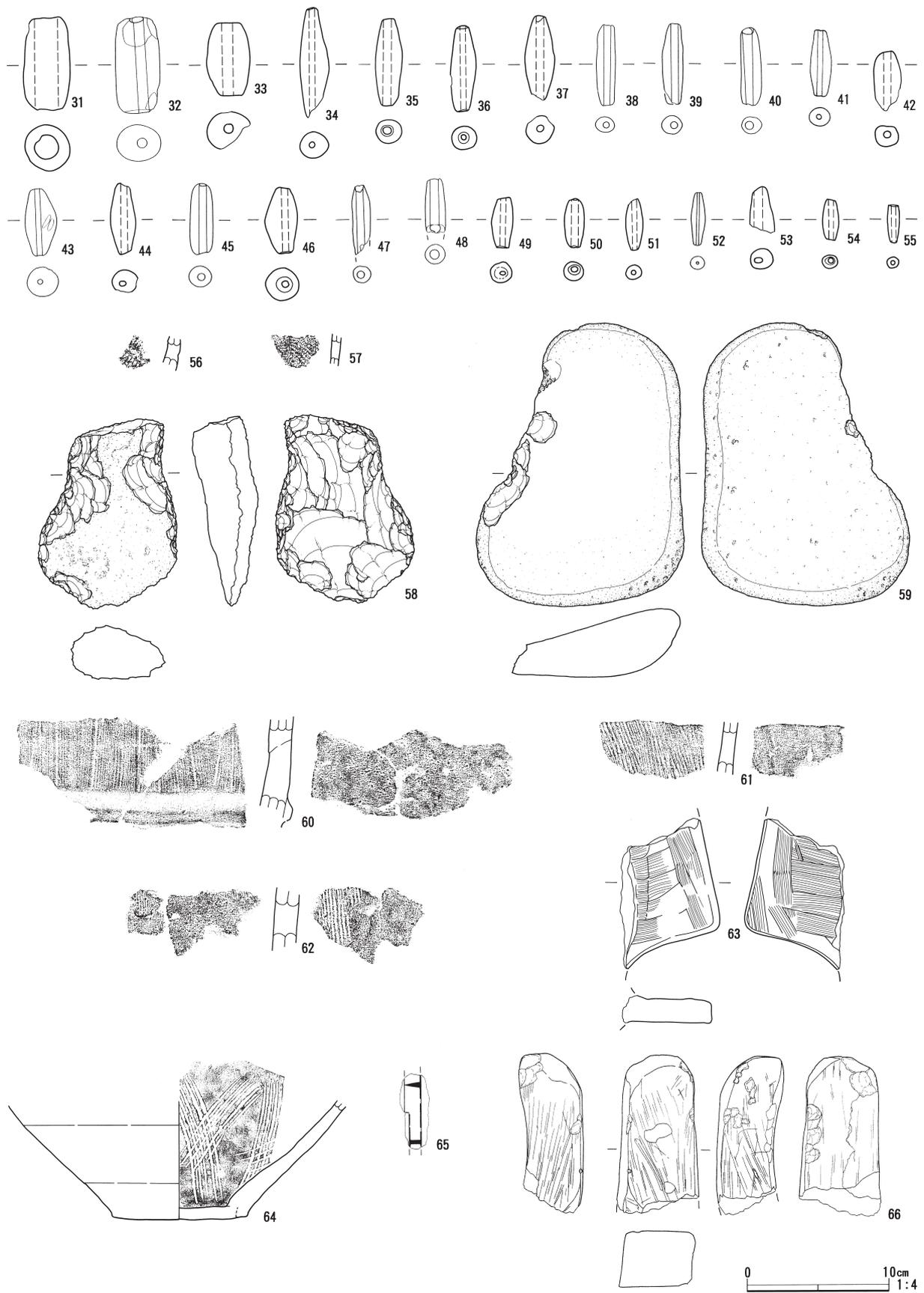


图20 天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物(2)

14	土師器 坏	A. 口径14.3。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部上半ナデ、体部下半・底部ヘラケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・赤色粒・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 1/4。
15	土師器 坏	A. 口径(16.2)。底径一。器高一。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/4以下。
16	土師器 坏	A. 口径(14.2)。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上半ナデ、体部下半・底部ヘラケズリ。内面、ナデか。D. 白色粒・角閃石。E. 内-黄褐色・外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 内面、黒色の被膜。
17	土師器 坏	A. 口径(12.9)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部・底部ケズリか。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内-橙色・外-明褐色。F. 1/2。G. 器面脆弱。
18	土師器 碗	A. 口径11.8。底径6.5。器高4.8。B. ロクロ成形。C. 底部回転糸切り後、高台貼り付け。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。
19	土師器 碗	A. 口径15.2。器高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部・底部ヘラナデか。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 底部焼成後穿孔か。
20	土師器 碗	A. 口径(15.4)。底径(8.6)。器高8.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、高台ヨコナデ。内面、坏部ナデ、高台部ヨコナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。
21	土師器 高	A. 底径11.5。残存高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ。内面、脚部ヘラナデ、裾部ナデ。D. 赤色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。
22	須恵器 坏	A. 口径(8.6)。底径4.8。器高2.9。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ。内面、ロクロナデ。D. 角閃石・暗赤褐色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 3/4以下。G. 内外面磨耗。
23	須恵器 坏	A. 口径13.3。底径6.4。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、底部回転糸切り。D. 石英・白色粒。E. 内外-灰色。F. 完形。
24	須恵器 坏	A. 口径(12.0)。残存高3.5。B. ロクロ成形。C. 外面、底部回転糸切りか。D. 海綿骨針・白色粒。E. 内-灰色・外-黄灰色。F. 1/4。
25	須恵器 坏	A. 口径11.6。底径6.8。器高4.3。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ、底部回転糸切り。内面、ロクロナデ。D. 角閃石・砂粒。E. 内外-灰黄色。F. 完形。
26	須恵器 坏	A. 口径12.1。底径7.2。器高3.6。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ、下端ヘラケズリ、底部回転糸切り。内面、ロクロナデ。D. 角閃石・石英・暗赤褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2以上。G. ロクロ左回転。
27	須恵器 坏	A. 口径(12.6)。底径6.6。器高3.0。B. ロクロ成形。C. 外面、ロクロナデ、底部回転糸切離し。内面、ロクロナデ。D. 角閃石。暗褐色粒・黒色粒。E. 内外-灰白色。F. 1/2以下。
28	土師器 甕	A. 口径(18.9)。残存高15.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 1/4。
29	土師器 甕	A. 口径(19.5)。残存高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部ヘラケズリ。内面、体部ヘラナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内-橙色・外-にぶい黄橙色。F. 1/3。
30	土師器 甕	A. 底径3.3。残存高16.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部・底部ヘラケズリ。内面、体部・底部ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内-橙色・外-明褐色。F. 1/3。
31	土製品 土 錘	A. 長さ6.6。最大幅3.3。重さ69.65。孔径1.7。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 赤褐色粒・白色粒。E. にぶい黄色。
32	土製品 土 錘	A. 長さ6.9。最大幅3.1。厚さ2.6。重さ62.7。孔径0.7。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 白色粒・赤色粒。E. 明赤褐色。F. 一部欠損。
33	土製品 土 錘	A. 長さ5.2。最大幅3.1。重さ39.88。孔径0.7。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. チャート・赤褐色粒。E. にぶい黄橙色。
34	土製品 土 錘	A. 長さ7.8。最大幅2.0。重さ24.24。孔径0.4。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 角閃石赤褐・チャート。E. にぶい橙色。
35	土製品 土 錘	A. 長さ6.2。最大幅1.9。重さ18.77。孔径0.6。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 石英・赤褐色粒。E. にぶい赤褐色。
36	土製品 土 錘	A. 長さ6.1。最大幅1.8。重さ17.72。孔径0.4。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. チャート・白色粒。E. 黒褐色。
37	土製品 土 錘	A. 長さ6.0。最大幅2.0。重さ21.43。孔径0.5。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 角閃石・赤褐色粒。E. にぶい赤褐色。
38	土製品 土 錘	A. 長さ5.8。最大幅1.4。厚さ1.1。重さ8.0。孔径0.5。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 白色粒・赤色粒。E. 明赤褐色。F. 完形。
39	土製品 土 錘	A. 長さ5.8。最大幅1.5。厚さ1.2。重さ10.2。孔径0.5。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 橙色。F. 完形。
40	土製品 土 錘	A. 長さ5.6。最大幅1.5。厚さ1.2。重さ10.5。孔径0.6。B. 粘土巻き付け。C. ナデ。D. 白色粒。E. 明赤褐色。F. 完形。



### Ⅲ 結 語

天神林Ⅱ遺跡は、本庄台地北端部に展開する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡である。台地の下には利根川水系の沖積地が広がり、現在では近くを元小山川が流下している。当時においても、水害が少なく、水田、畠作、漁撈、製炭など生産にも向いた生活の好適地であったろう。

そのことを物語るかのように、天神林Ⅱ遺跡の立地する本庄台地の北端部には、同時期の集落遺跡が密集している。天神林Ⅱ遺跡の西方には、一連の集落遺跡と考えられる天神林遺跡があり、さらに、開析谷を挟んで、西方に延びる本庄台地縁辺部にも本庄城跡、城山遺跡など密度の高い集落遺跡がほぼ切れ目なく連続している。東方へは薬師堂遺跡、本庄飯玉遺跡、薬師堂東遺跡が連なり、さらに形成年代の不明であった南御堂坂遺跡においても、近年の調査でほぼ同時期の高密度集落が確認されており、本庄台地北縁部は、古墳時代後期以降平安時代まで、500年余にわたって長く居住域としての土地利用がなされていたことが確認できる。

ただし、近年の調査によって、これら一連の遺跡群が、単純な集落遺跡のみで構成されているのではないという事実も明らかになってきた。天神林Ⅱ遺跡の東側に近接する薬師堂東遺跡は、6世紀の後半から遺跡の規模が拡大する様相が窺えるが、平成24年度に本庄東中学校の校舎建設に伴って実施されたC地点の発掘調査では、7世紀前半のガラス小玉鑄型多数のほか、鑄銅用の土師器転用埴塼が出土している。高温を管理・操作する技術を必要とするガラス製品および銅製品の技術集約的な生産は、おそらく中央の積極的な技術移転の意図がなければ実現しないものであろう。

7世紀前半の時期は、ガラス小玉が古墳の副葬品として多くの需要があった時期であり、元来は畿内の中央政権が製作と配布について主体的に関与する製品である。そのような玉類の生産拠点が、一部であるにせよ東国にも置かれるようになったことの意味は小さくないだろう。坂本和俊氏は、古代武蔵国の郡郷を検討するなかで、『日本書紀』安閑天皇元（534）年条の「武蔵国造の争乱」に際し、笠原直使主が献上した屯倉4箇所の中の一つ、多氷屯倉を児玉郡大井郷に想定しうるとする見解を示している。本庄市内では、多氷屯倉や大井郷の所在地をさらに厳密に特定しうだけの資料は未だ得られていないが、先端的な技術が地方へと移植されることの理由を考えると、多氷屯倉と児玉郡大井郷を関連付けて考察された坂本氏の見解は重視されるべきであろう。

薬師堂東遺跡におけるガラス小玉生産からは年代が下るが、天神林Ⅱ遺跡出土の三脚付き土師器鉢は、底部外面に被熱痕を認めないこと、一遺構に多数が遺棄された状態で発見されたことなどから、ごく短期間に使用され、その後一括廃棄された状況が読み取れる。一般の集落では出土しない稀有な器種であり、原型に鼎を連想させる器形からも、政治的または宗教的な儀礼の場面で用いられた可能性が高いと考えられる。遺構としては明確に把握できないが、天神林Ⅱ遺跡の一角には、何らかの特殊な儀礼空間が存在したのだろう。

本庄台地北縁に立地する集落遺跡では、土錘の検出される確率が高いことが以前から指摘されてきたが、その傾向は天神林Ⅱ遺跡においても同様である。現在、台地下の沖積地には、元小山川が東流しているが、古墳時代から平安時代にかけても、台地末端の湧水を集めた小河川が、台地に沿うように流下していたと考えられ、天神林Ⅱ遺跡の居住した人々も、小河川での漁撈活動を、盛んに行っていたことを推定できる。

## <引用・参考文献>

- 大熊季広 2010 『小島本伝遺跡Ⅱ－C地点－旭・小島古墳群－林6・7号墳D地点－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 本庄市教育委員会
- 2013 『佐口遺跡Ⅱ－B地点の調査－・本庄飯玉遺跡・北堀新田遺跡Ⅲ－D地点の調査－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集 本庄市教育委員会
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『塩原屋敷遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第32集 本庄市教育委員会
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『旭・小島古墳群－林地区Ⅰ－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第3集 本庄市教育委員会
- 太田博之 2009 『雌濠Ⅱ・笠ヶ谷戸・小島本伝』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 本庄市教育委員会
- 2011 『本庄城跡』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集 本庄市教育委員会
- 2013 『本庄2号遺跡・薬師堂東遺跡（第1・第2地点）・御堂坂4号墳』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第33集 本庄市教育委員会
- 2014 『石神境遺跡・天神林Ⅱ遺跡』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第38集 本庄市教育委員会
- 太田博之・増田一裕・松本 完ほか 2002 『東五十子・川原町』東五十子遺跡調査会
- 恋河内昭彦 2009 『七色塚遺跡Ⅱ（B1地点）・北堀新田前遺跡（A1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 本庄市教育委員会
- 2014 『七色塚遺跡Ⅲ（B2地点）・北堀久下塚北遺跡Ⅲ（C・D地点）・久下東遺跡Ⅶ（A2・B2・B3・F2地点）・宥勝寺北裏遺跡（C地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 本庄市教育委員会
- 坂本和俊 2012 「武蔵国北部の郡郷と式内社をめぐって」『東邦考古』36 東邦大学附属東邦高等学校東邦考古学研究会
- 増田一裕 1990 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅳ－御堂坂2号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第16集 本庄市教育委員会
- 水谷貴之 2012 『城山遺跡Ⅱ－第2地点の調査－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第30集 本庄市教育委員会
- 松本 完 2002 『本庄遺跡群発掘調査報告書－御堂坂第1号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第24集 本庄市教育委員会
- 2009 『浅見山Ⅰ遺跡（Ⅲ次）・久下東遺跡（Ⅲ次）A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 本庄市教育委員会
- 2010 『久下前遺跡Ⅲ（C1地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A1地点）・宥勝寺北裏遺跡Ⅲ（A1・B1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集 本庄市教育委員会
- 宮本久子 2009 『塚合古墳群Ⅱ』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 本庄市教育委員会
- 山本千春 2005 『城山遺跡』本庄市遺跡調査会報告第12集 本庄市遺跡調査会
- 2013 『南御堂坂遺跡』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第35集 本庄市教育委員会
- 和久裕昭・有山経世 2004 『東五十子赤坂遺跡』本庄市遺跡調査会報告第8集 本庄市遺跡調査会
- 常深 尚 2004 『東五十子城跡遺跡』本庄市遺跡調査会報告第11集 本庄市遺跡調査会

写 真



天神林Ⅱ遺跡A地点調査風景



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1完掘状況 [南から]



天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [南から]



天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [東から]



天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1遺物出土状況 [東から]



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [西から]



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [南から]

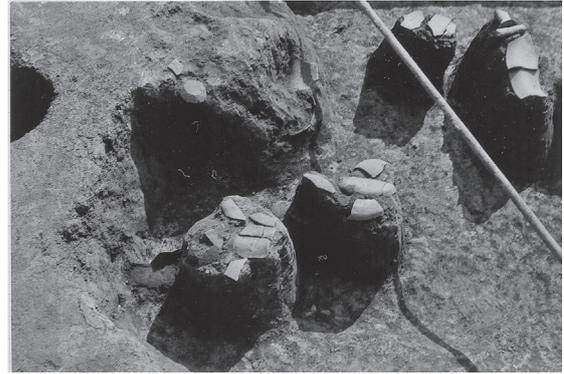


天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況 [北から]

## 写真 2



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況〔西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2遺物出土状況〔西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3完掘状況〔南西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4完掘状況〔南から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-5完掘状況〔北西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6完掘状況〔南から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6遺物出土状況〔北西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6遺物出土状況〔北西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1遺物出土状況〔南から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1遺物出土状況〔西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SD-9完掘状況〔西から〕



天神林Ⅱ遺跡A地点SD-10完掘状況〔北から〕



天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景〔東から〕



天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景〔西から〕



天神林Ⅱ遺跡B地点調査区全景〔南から〕

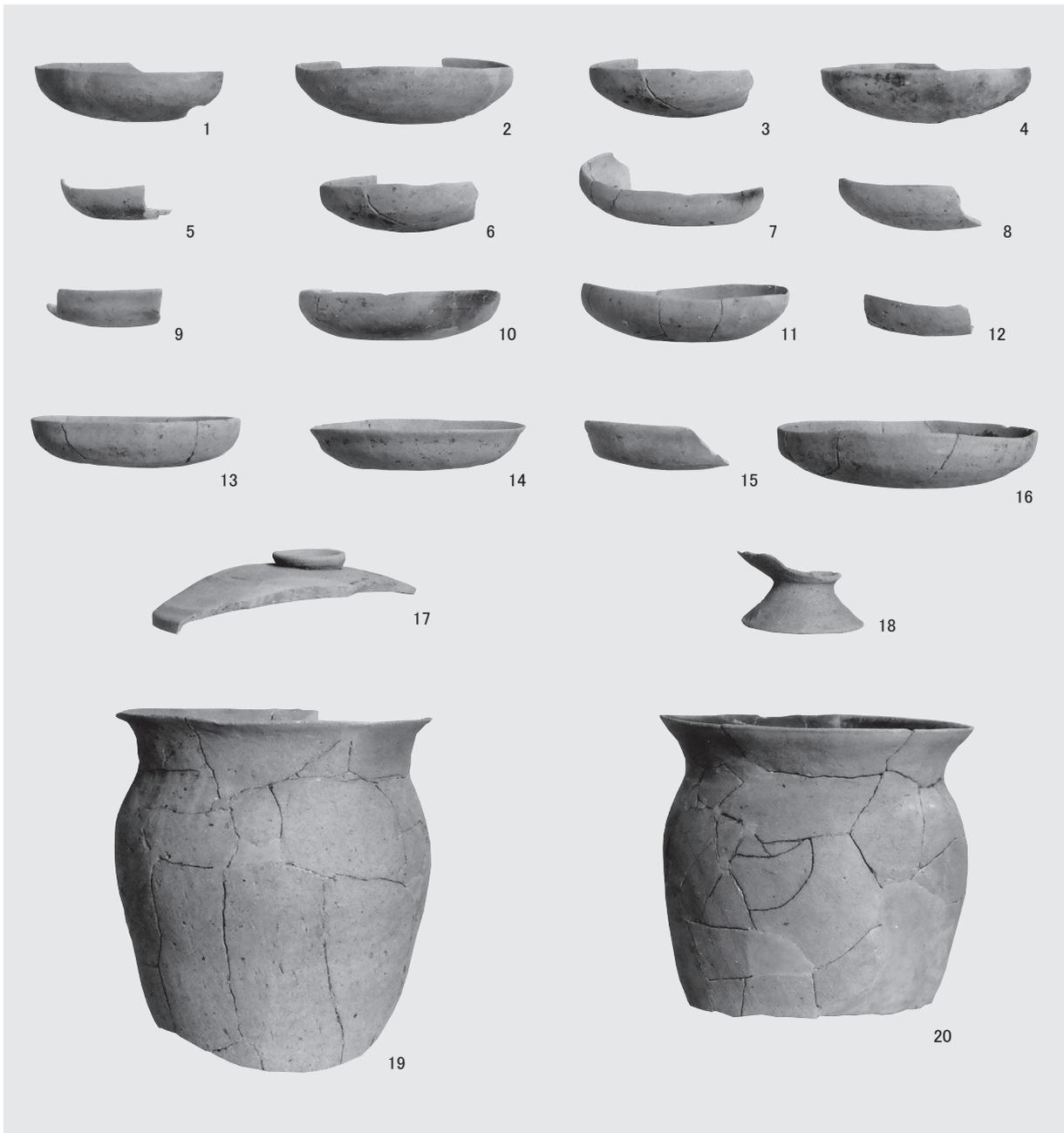


天神林Ⅱ遺跡B地点SD-1～4重複状況

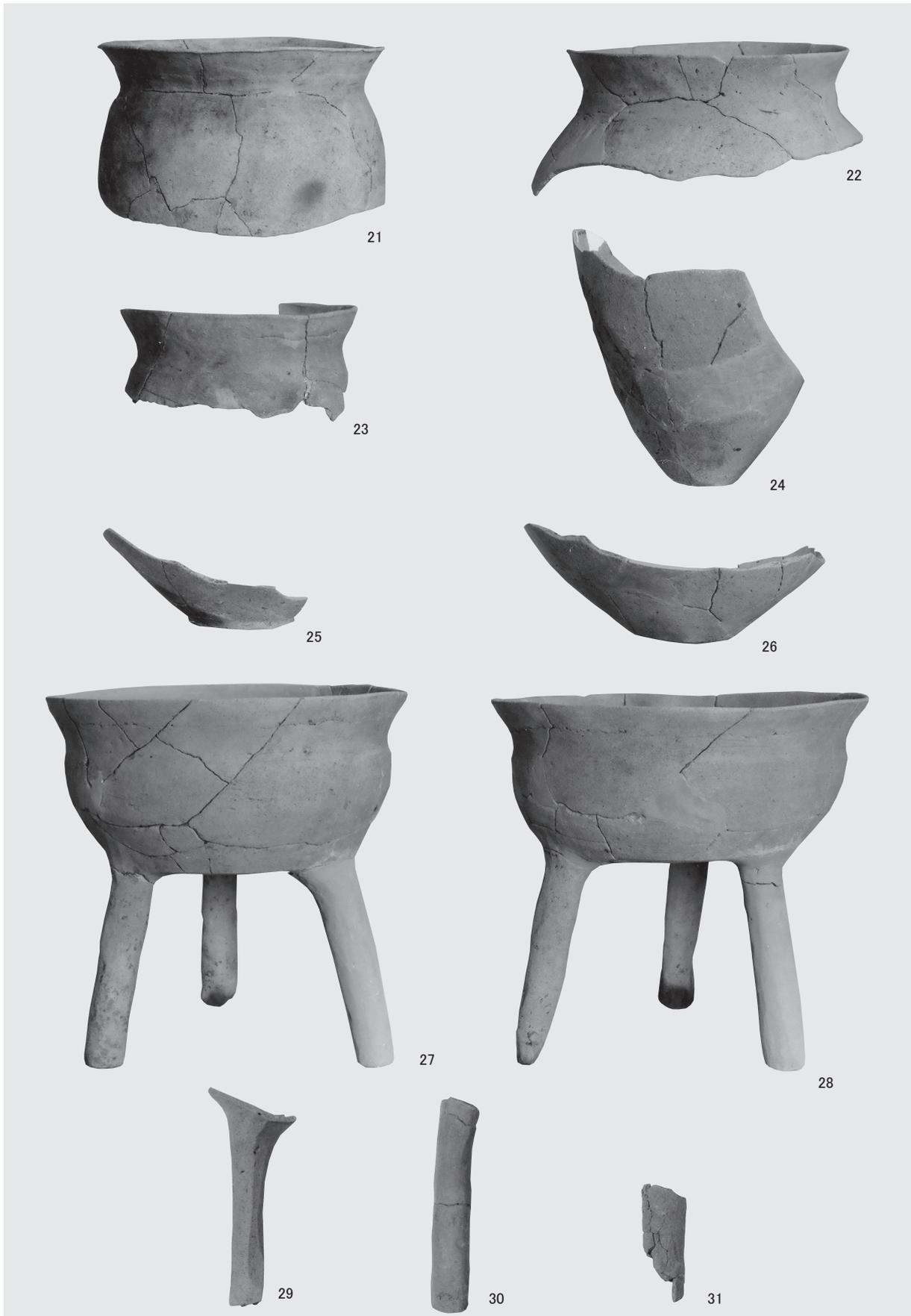
写真 4



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-1出土遺物



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物（1）



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-2出土遺物(2)

写真6



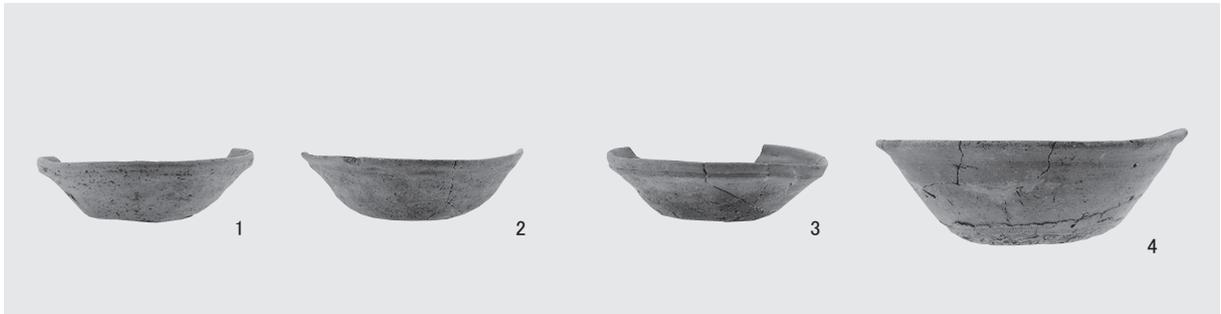
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-3出土遺物



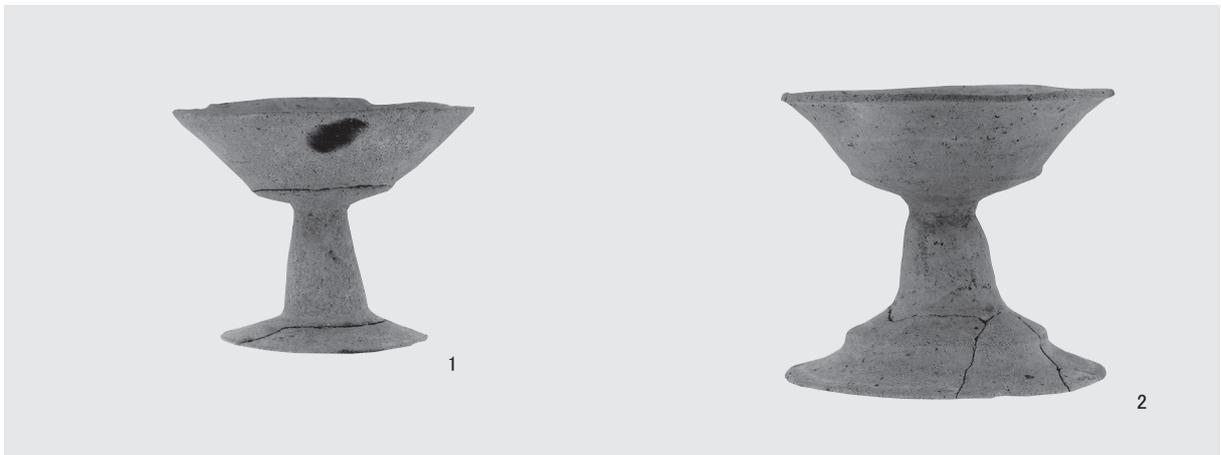
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-6出土遺物



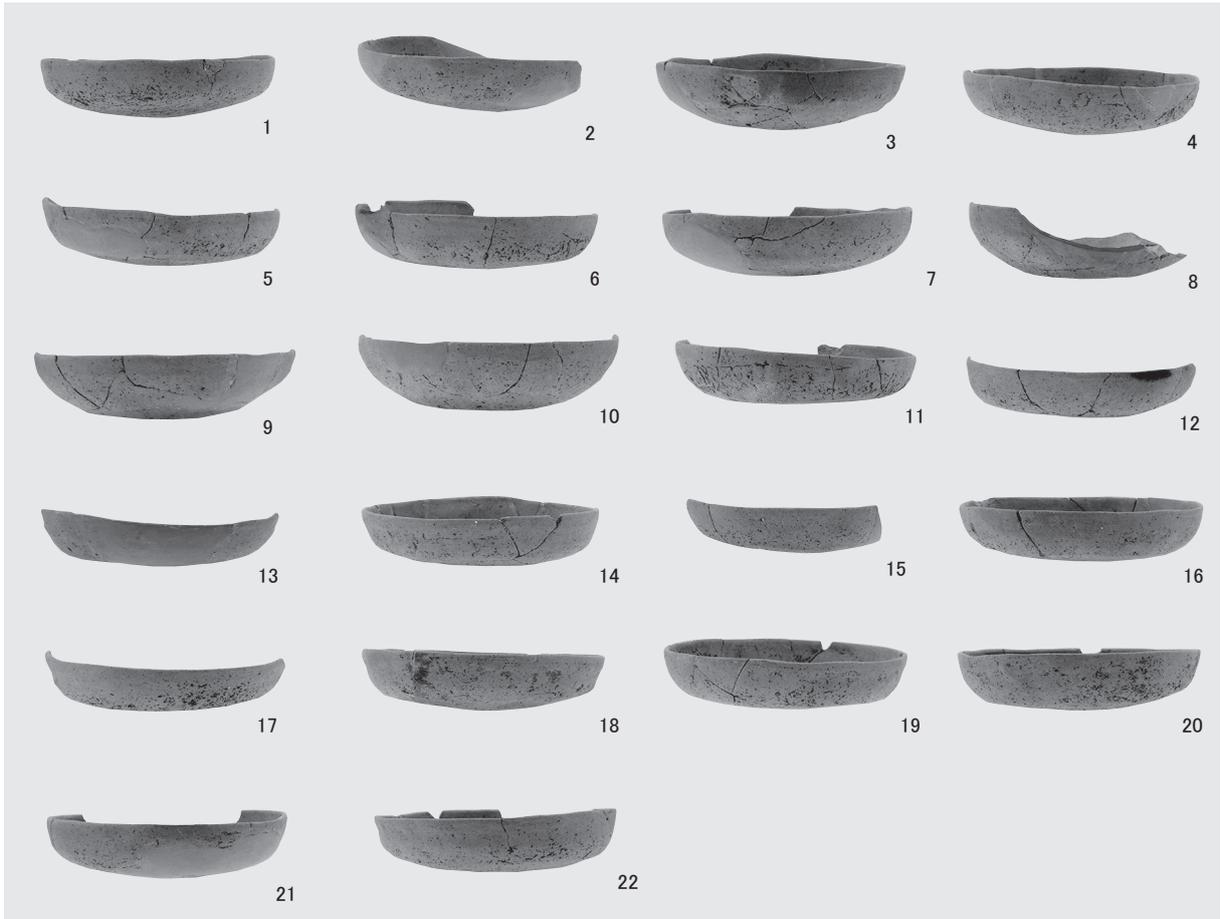
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-4出土遺物



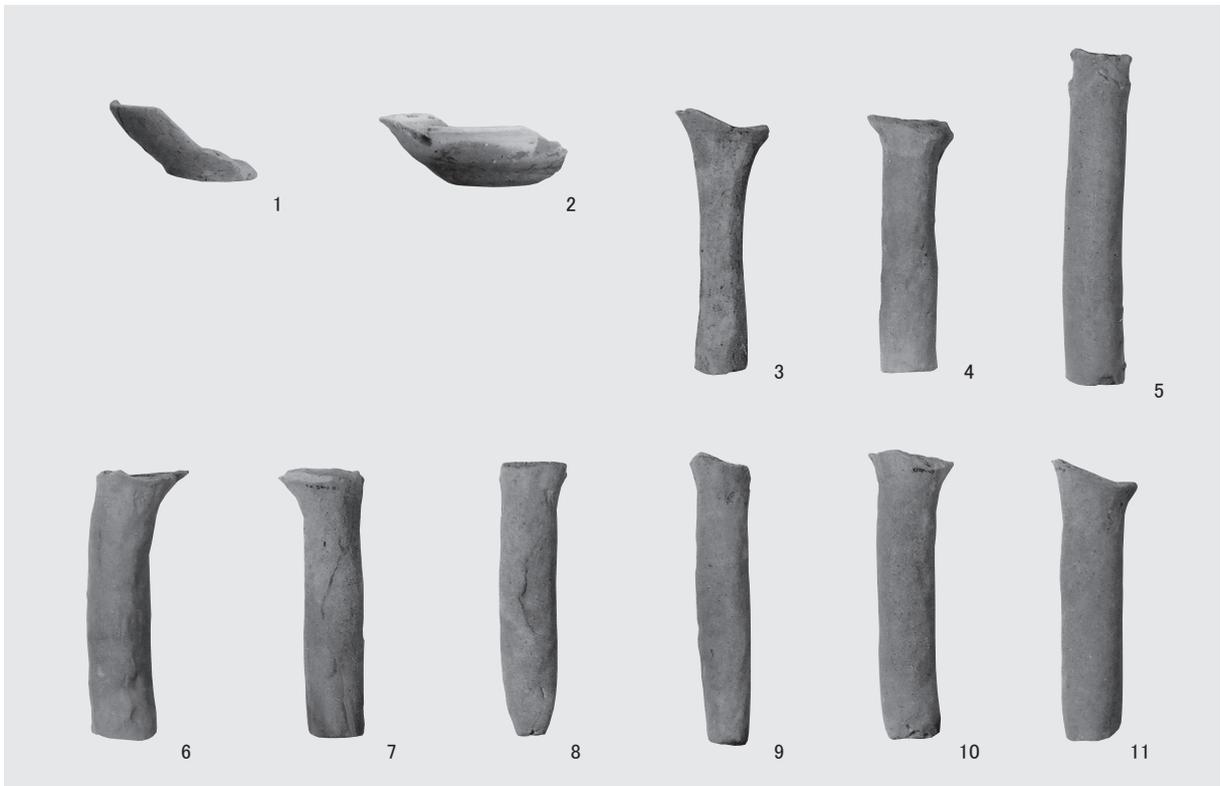
天神林Ⅱ遺跡A地点SI-7出土遺物



天神林Ⅱ遺跡A地点SI-8出土遺物

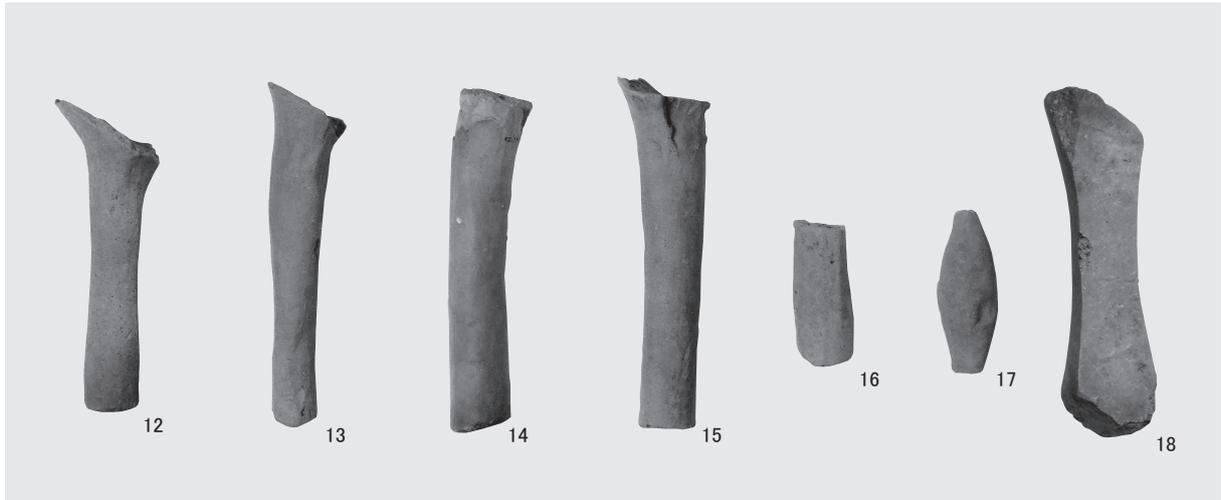


天神林Ⅱ遺跡A地点SK-1出土遺物

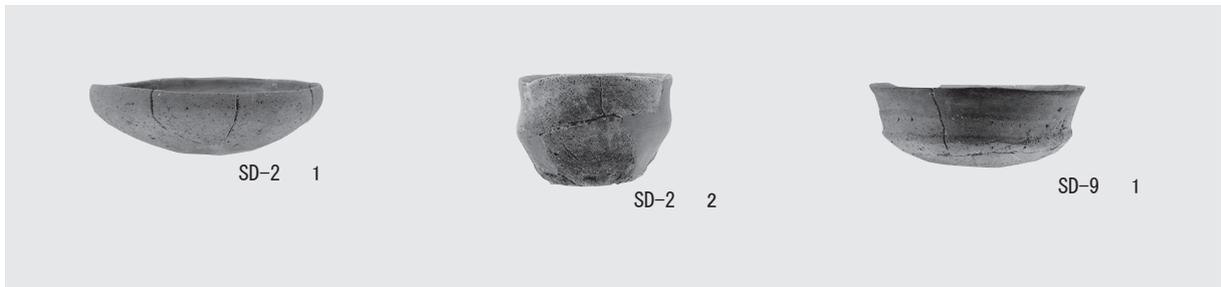


天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物(1)

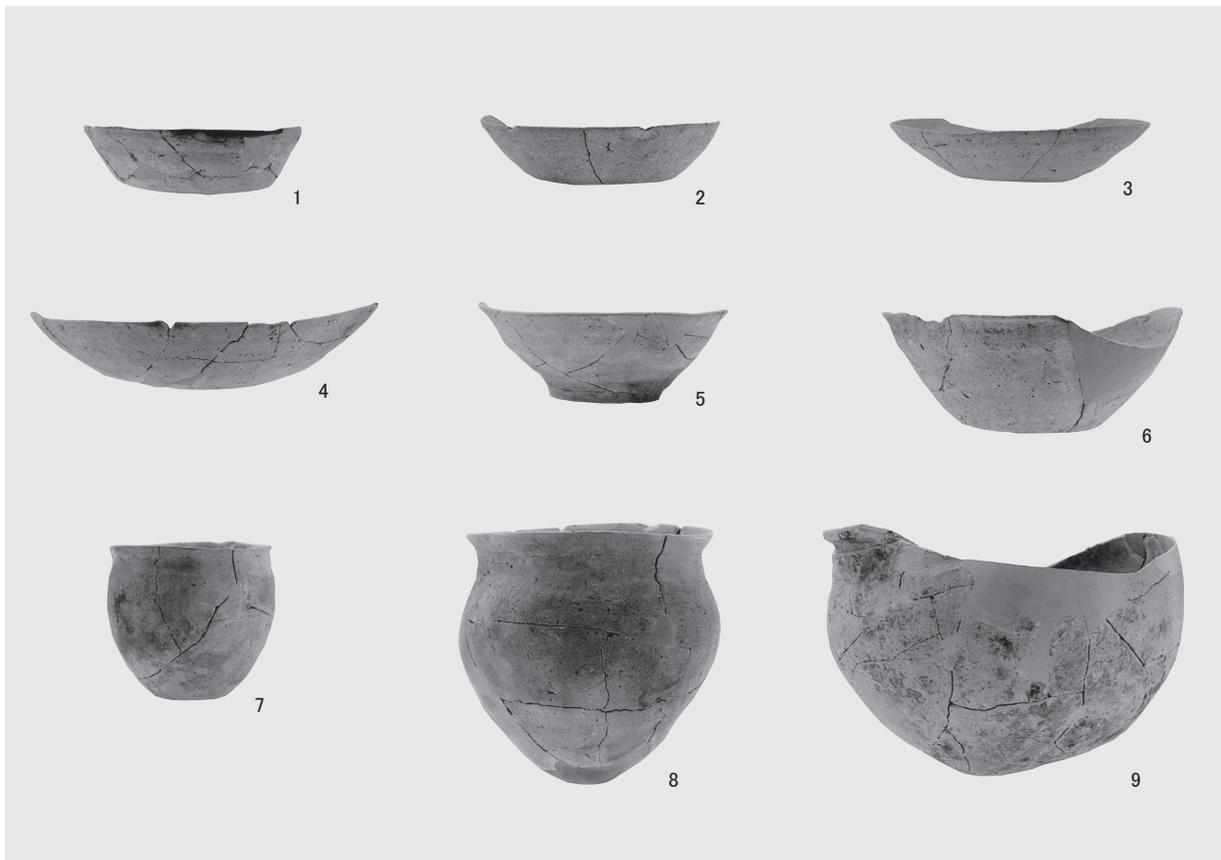
写真 8



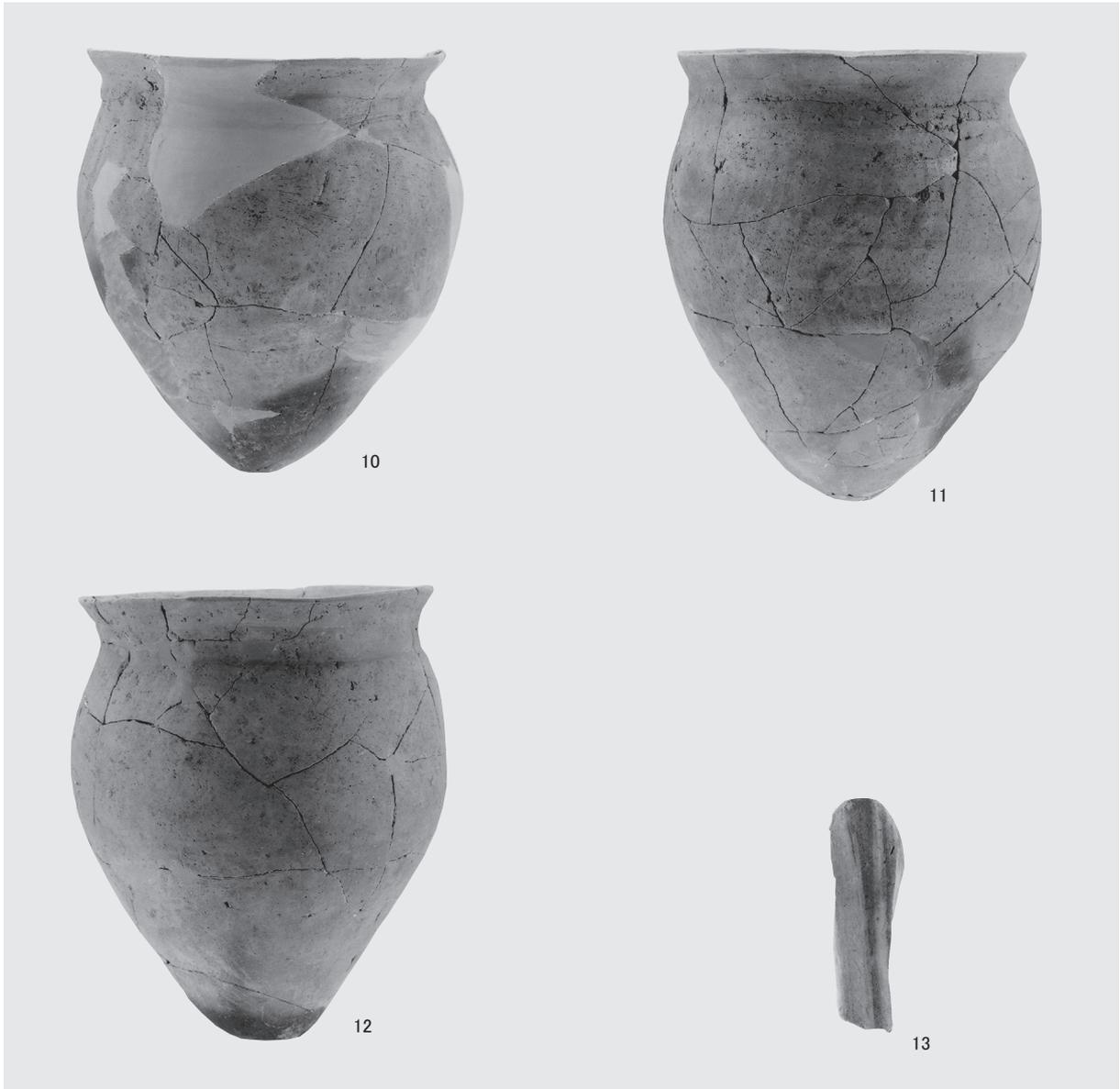
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-1出土遺物(2)



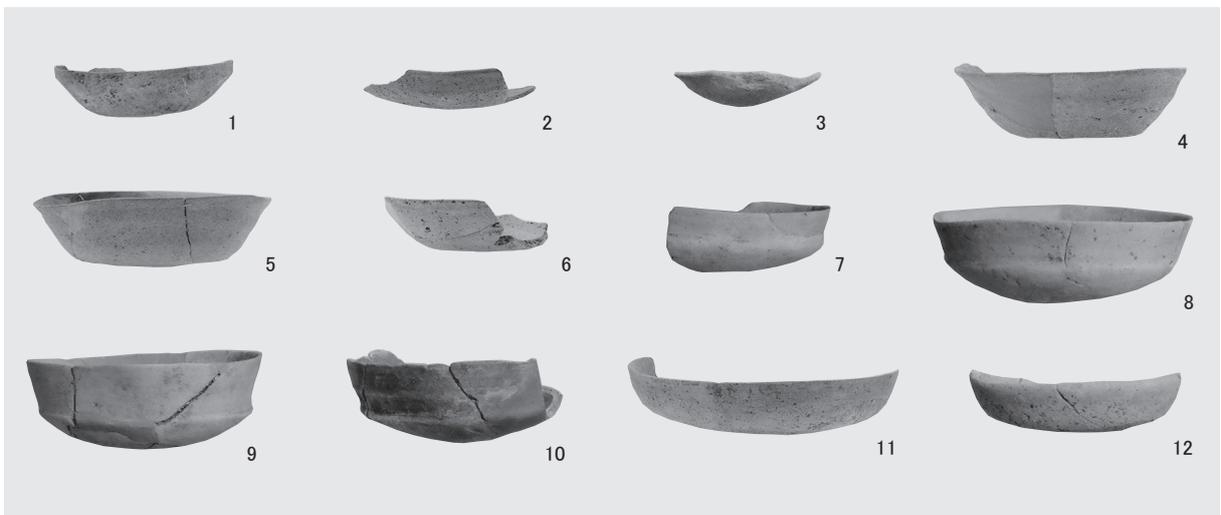
天神林Ⅱ遺跡A地点SD-2・9出土遺物



天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物(1)

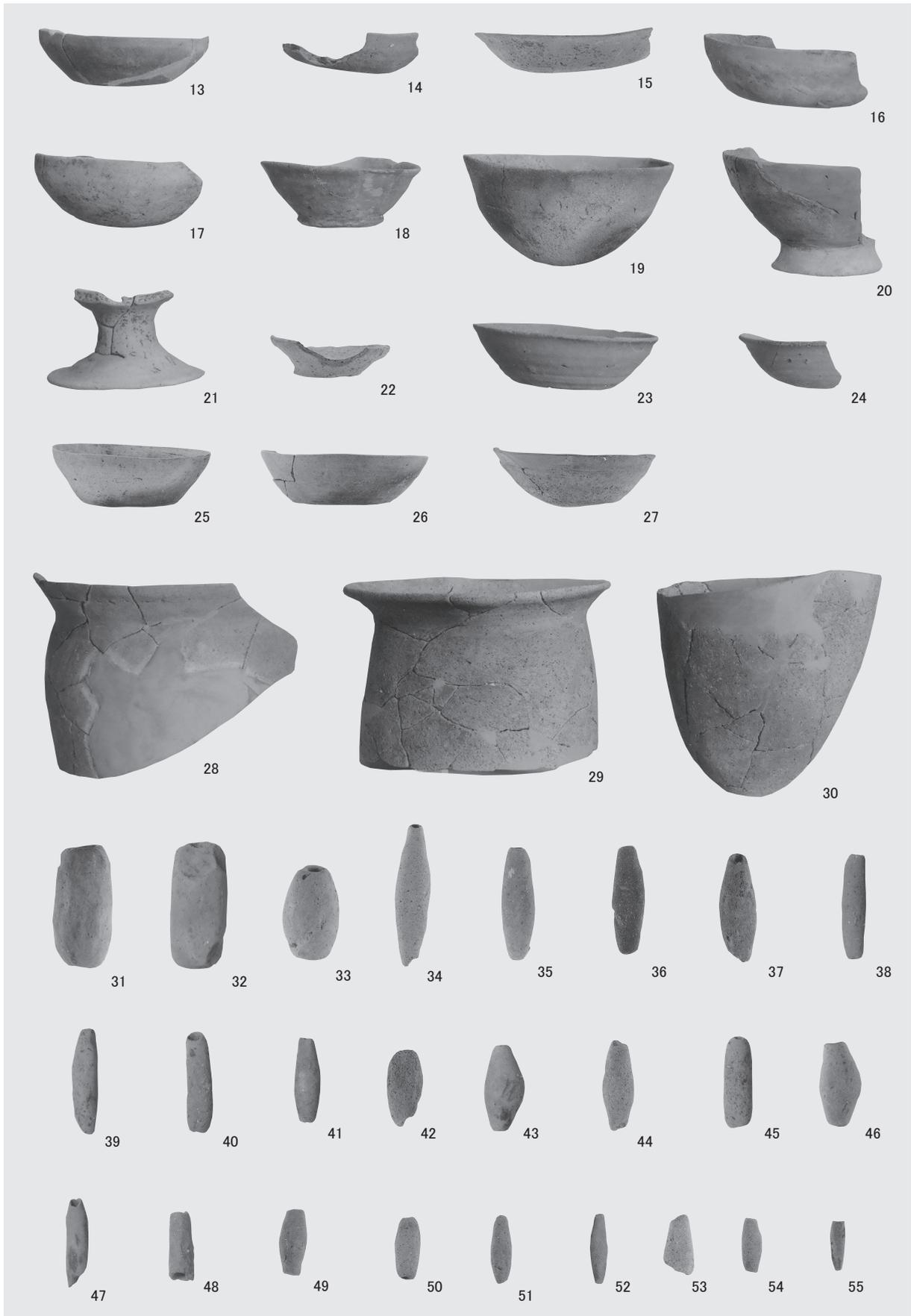


天神林Ⅱ遺跡A地点大溝出土遺物(2)

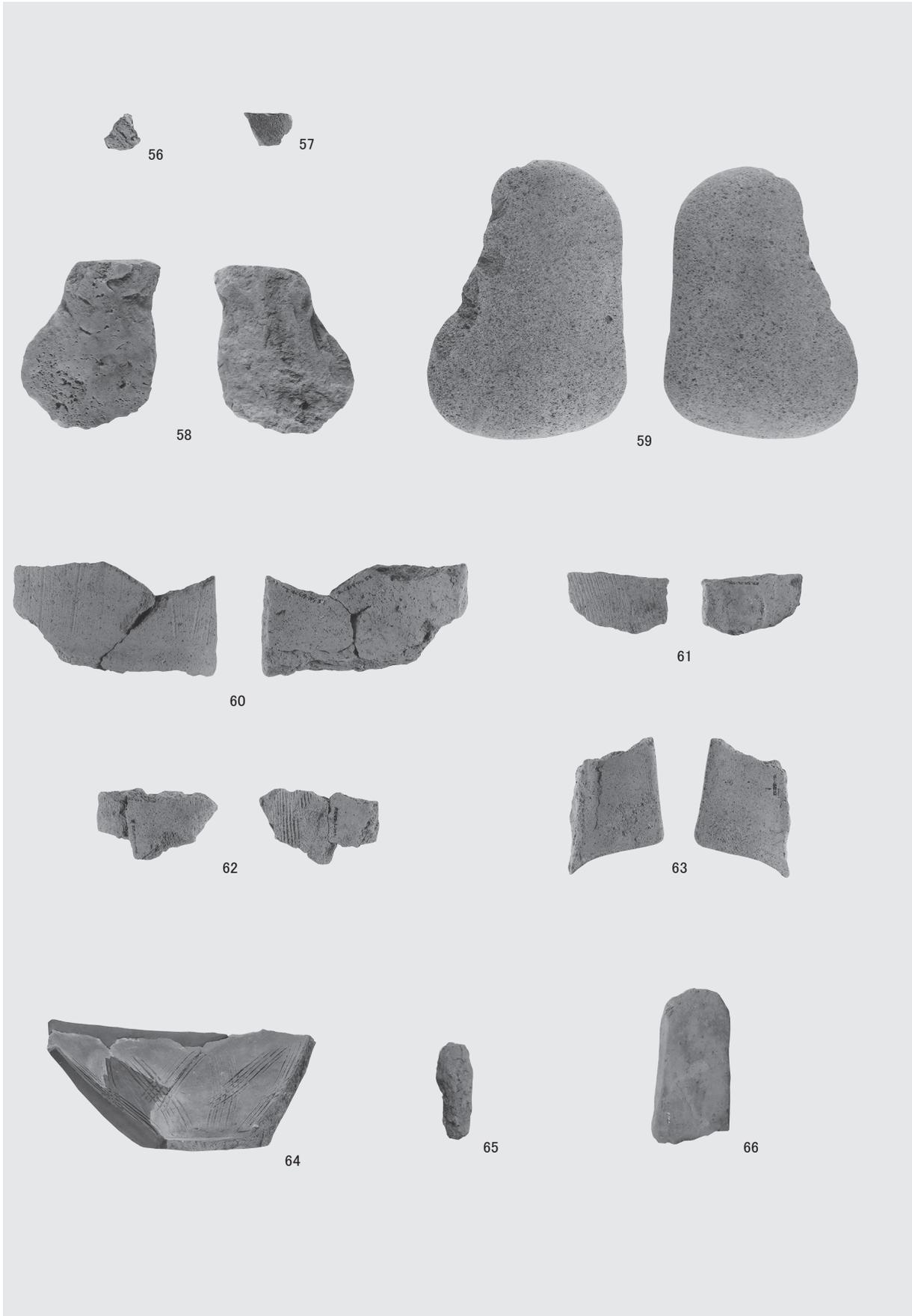


天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物(1)

写真10



天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物（2）



天神林Ⅱ遺跡A地点調査区一括出土遺物（3）

# 報告書抄録

フリガナ	テンジンバヤシニイセキ							
書名	天神林Ⅱ遺跡							
副書名								
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第47集					
編著者	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号			TEL 0495-25-1185				
発行日	西暦2016年(平成28年) 3月 31日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コ ー ド 市町村	遺跡	北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積	調査原因
テンジンバヤシニイセキ 天神林Ⅱ遺跡	ホンジョウシヒガシダイ 本庄市東台1丁目3-1	112119	53-018	36°14'15"	139°11'51"	19930607 ～ 19940930	3,097 m <sup>2</sup>	市営住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡	古墳・奈良・平安時代	竪穴住居跡8基・溝21条・土坑61基		土師器・須恵器・土錘			

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第47集

## 天神林Ⅱ遺跡

平成28年3月25日 印刷

平成28年3月31日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1185

印刷／山進社印刷株式会社